

教育委員会事務の点検・評価報告書  
(令和4年度)

令和5年9月  
秋田市教育委員会

## 第1部 点検・評価にあたって

### 1 点検・評価の趣旨

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、秋田市教育委員会が、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について自己点検・自己評価を行い、その結果をまとめたものです。

本市では、毎年、前年度の主要な施策・事業についての点検・評価を行い、これにより明らかになった課題等の改善を図ることで、より効果的な教育行政の推進に努めています。

#### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### 2 点検・評価の対象

今年度の点検・評価は、令和4年度の事務・取組を対象とし、秋田市教育ビジョンの施策体系に沿って、当該年度の主要な施策・事業を選定した上で実施しています。

### 3 点検・評価の内容

秋田市教育ビジョンの「施策」ごとに評価シートを設け、以下の各項目を整理しています。

#### 「施策・事業」

本市教育の目指す姿の実現に向け、令和4年度に取り組んだ主要な施策・事業を記載しています。

#### 「実績および成果（自己評価）」

令和4年度における事業実績および取組の成果を記載しています。

#### 「今後の課題と対応（令和5年度以降の取組）」

今後取り組むべき課題や各施策・事業の方向性を記載しています。

### 4 学識経験者の知見の活用

点検・評価にあたっては、教育委員会による自己点検・自己評価についての客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることが求められています。

本市では、教育ビジョンに沿った点検・評価を行うという観点から、教育ビジョン策定時の検討委員から点検・評価アドバイザーを選任しており、今年度は、佐藤修司氏（秋田大学大学院教育学研究科教授）、梶本歩美氏（国際教養大学国際教養学部グローバル・スタディズ領域准教授）からご意見をいただきました。

学識経験者のご意見等は、各施策毎に該当ページに掲載しています。

### 5 報告書の作成スケジュール

令和5年5月25日 教育委員会5月定例会  
（点検・評価の実施方針について報告）

令和5年7月27日 教育委員会7月定例会  
（点検・評価報告書（事務局案）に対する意見聴取）

令和5年8月16日 学識経験者から意見聴取

令和5年9月28日 教育委員会9月定例会  
（点検・評価報告書の議決）

## 第2部 点検・評価の結果

目指す姿	目 標	施策の方向性	施 策	ページ	
あきたの未来を ともにつくり ともに生きる 「自立と共生」 の人づくり	【目標1】 志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ 教育の充実	1 豊かな人間性の育成	1 道徳教育の充実	3	
			2 人間関係を築く力の育成	5	
			3 郷土に根ざしたキャリア教育の充実	7	
			4 読書活動の充実	9	
		2 確かな学力の育成	1 学習指導の充実	11	
			2 ICTを活用した教育の推進	13	
			3 グローバル化に対応した教育の推進	15	
		3 健やかな心と体の育成	1 保健教育の充実	17	
			2 体力の向上	19	
			3 食育の推進	21	
		4 今日的な課題に対応した教育の充実	1 いじめ問題への対応	23	
			2 不登校児童生徒への支援の充実	25	
			3 特別支援教育の充実	27	
			4 情報モラル教育の充実	29	
			5 防災教育の充実	30	
		5 教育の質を高める体制の充実	1 教職員研修の充実	32	
			2 系統性・連続性を踏まえた教育の充実	34	
			3 家庭・地域・関係機関等との連携体制の充実	36	
			4 教員の働き方改革の推進	38	
		6 高等学校教育の充実	1 秋田商業高等学校の教育の充実	40	
			2 御所野学院高等学校の教育の充実	42	
			3 秋田公立美術大学附属高等学院の教育の充実	43	
		【目標2】 生涯を通じて学び、個性と能力を高める教育の充実	1 学習支援体制の充実	1 多様な団体等との連携・協働の推進	45
				2 各種学習情報の発信の充実	47
	2 学習機会の充実		1 ライフステージに応じた学習機会の充実	48	
			2 新しい学習環境の充実	50	
	3 学習成果の活用支援		1 学習成果の適切な評価と活用の推進	51	
			2 地域への学習成果の還元への推進	52	
	4 地域コミュニティづくりの推進		1 学びを通じたネットワークづくりの推進	54	
	5 読書活動の推進		1 図書館サービスの向上	56	
【目標3】 将来にわたり安全安心で快適な教育環境の整備	1 良好な教育環境の整備		1 学校の適正配置	58	
			2 ICT環境の充実	60	
		3 児童生徒の実情に応じた学びの支援	62		
	2 安全安心な教育環境の整備	1 校内や通学路等の安全確保	64		
		2 安全安心で安定的な学校給食の提供	66		
		3 教育施設の整備	68		

目標 1	志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ教育の充実
施策の方向性 1	豊かな人間性の育成
施策 1	道徳教育の充実

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
教育活動全体を通じた道徳教育の推進 (学校教育課)	道徳教育推進教師を中心に、全教職員で自校の道徳教育の目標や方向性について共通理解を図り、学校教育全体を通じた道徳教育の充実に努めた。 各校の実態や取組状況を踏まえた学校訪問指導や教職員研修会等を通して、考え、語り合う道徳科の推進に取り組んだ。
家庭、地域と連携した取組の推進 (学校教育課)	コロナ禍により、地域での体験活動や行事への参加、地域人材の活用などを制限する学校も見られたが、学校報や学年通信、ホームページ等を通して、自校の道徳教育の取組についての情報発信に努めるとともに、子どもの道徳性をはぐくむための地域と連携した取組のあり方について、学校運営協議会等で協議を行った。 <b>【令和4年度実績】</b> 学校運営協議会において道徳教育についての協議を行った学校 45校
「人権の花」運動の実施 (総務課)	小学校で「人権の花」運動を実施し、人権尊重の心をはぐくむ啓発活動を行った。(法務省委託事業) <b>【令和4年度実施校】</b> 8校(築山小学校、中通小学校、土崎小学校、下新城小学校、金足西小学校、八橋小学校、泉小学校、雄和小学校)

<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p>【現状（課題・成果等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において、校外活動が制限され、体験活動や家庭・地域との連携が思うようにできない状況にあったことから、道德教育と関連付けた体験活動の充実を図る必要がある。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの5類移行に伴い、体験活動等の実施について回復が見込まれることから、道德教育と関連付けた地域での体験活動や地域人材の活用をより一層推進し、家庭や地域と連携した取組の充実に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の影響はいたしかたないところであるが、通常復帰に向けた努力に今後とも期待したい。コロナ禍は子どもの心情、道徳性にもマイナスの影響を与えていることが予想されることから、丁寧なフォロー、ケアをお願いする。</li> <li>・地域での体験活動との結び付けなど、より一層の道德教育の充実が必要である。</li> </ul>

目標 1	志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ教育の充実
施策の方向性 1	豊かな人間性の育成
施策 2	人間関係を築く力の育成

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
学級づくり、集団づくりの充実 (学校教育課)	自分や相手のよさを理解し大切にできる態度をはぐくむことができるよう、道徳科や特別活動等において自分の思いや考えを表現し、互いに認め合う場面を設定するなど、相互の理解を深め、よりよい集団づくりを目指す活動の充実を図った。 学校行事等において、多様な他者と協働する機会を大切にすることで、自他を尊重する態度の育成に努めた。
Q-U調査を生かした学級集団づくり (教育研究所)	「学級づくり・集団づくり研修会」を実施し、望ましい学級経営のためのQ-U調査(※1)の効果的な活用について理解を深めた。また、「講師研修会」では、調査結果を集団づくりに生かすための方策等について理解を深めた。校内研修等で活用できるよう、研修で用いた資料を学校間ネットワークを通じて各校に提供した。 各校においては、調査結果から学級集団の傾向をとらえて、児童生徒への支援のあり方を見直したり、事後の指導に生かしたりするなど、Q-U調査の結果を活用した学級づくりに努めた。 【令和4年度研修会参加者】 学級づくり・集団づくり研修会 15人、講師研修会 32人(2研修)
「はばたけ秋田っ子」教育の推進 (学校教育課)	「中学生サミット」を年2回開催し、市内中学校の生徒会代表者が、各校の生徒会活動などについて情報交換等を行うとともに、ネット利用のあり方について協議をしたり、学校や地域の魅力を発信したりする機会を設けるなど、学校間の交流を深め、中学生の主体的な取組の推進を図った。 【令和4年度実績】 参加者 106人

※1 Q-U調査

子どもたちの学校生活における満足度と意欲、学級集団の状態を把握するための質問紙調査。

※2 Q-U調査の結果の活用状況(令和4年度Q-U調査に関するアンケート)

	小学校40校	中学校24校
個々の児童生徒の実態をつかんだ。	95.0%	83.3%
日常生活における支援や関わり方を見直した。	85.0%	87.5%
気になる児童生徒への具体的な支援の手立てを考えて対応した。	62.5%	75.0%
授業における支援や関わり方を見直した。	52.5%	45.8%

<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p>【現状（課題・成果等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科等の学習や学校行事のみならず、教育活動全体を通じて、人間関係を築く力をはぐくむ取組を継続していく必要がある。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も学校訪問や教職員研修等の機会をとらえ、児童生徒理解や子どもの心に寄り添った指導のあり方について共通理解を図っていく。</li> <li>・「学級づくり・集団づくり研修会」「講師研修会」を実施し、Q-U調査の有効性等について理解を深めるとともに、効果的な活用を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の影響もあると思われるが、子どもの人間関係・友人関係形成力が落ちており、学級づくり・集団づくりについての取組を今後とも強めていただきたい。Q-U調査の結果を活かして、ソーシャルスキルトレーニングなどに取り組んでほしい。</li> <li>・今後も学校行事や研修会などの機会を充実させていくことと、日常的な関わり合いの中でも自尊心を高め、互いに尊重し合えるような教育環境が整備されることを期待する。</li> </ul>

目標 1	志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ教育の充実
施策の方向性 1	豊かな人間性の育成
施策 3	郷土に根ざしたキャリア教育の充実

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
啓発的な体験活動の推進 (学校教育課)	各校において、地域人材や企業等を活用した講話会や進路ガイダンスを実施し、自己の生き方等について理解を深める学習の充実を図った。 冊子「秋田市学校教育の重点」において、啓発的な体験活動のあり方について掲載するとともに、学校訪問指導を通して、各教科等における具体的な方策について指導・助言した。 【令和4年度実績】 地域人材等を活用した講話会 小学校23校、中学校17校
副読本「わたしたちの秋田市」の作成 (学校教育課)	二次元コードを掲載し、タブレット端末で写真や動画資料の検索ができるようにするとともに、デジタルコンテンツを活用した学習のまとめの例を掲載するなど、内容の充実を図った。 単元ごとの指導計画や、体験・観察等の指導例を記載した教師用指導資料を合わせて作成し、指導の充実に向けた改善を図った。 【令和4年度実績】 二次元コードによる写真資料の掲載129点、動画資料2点
郷土の伝統や文化等について学ぶ機会の充実 (学校教育課) (P36に再掲)	社会教育施設や地域の人材等の活用を図り、郷土の自然や歴史、文化、先人の偉業などについて理解を深めるなど、コロナ禍においても学校や地域の特性に応じた特色ある学習を推進した。 【令和4年度実績】 外部人材の活用 小学校1,229人、中学校363人
主体的な教育活動の支援 (総務課)	校外学習等の移動にかかる経費や、外部講師への謝礼など、校長の経営方針に基づく特色ある教育活動に対し、その活動の内容や学校規模に応じて予算を配当することにより、体験活動等の拡充が図られた。



<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p><b>【現状（課題・成果等）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において、校外活動が制限され、体験活動や校外学習が思うようにできない状況にあったことから、改めて地域の素材や外部人材との関わりを大切に学習の一層の充実に努める。</li> </ul> <p><b>【対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの5類移行に伴い、活動の回復が見込まれるため、引き続き、各校が地域の特性に応じた特色ある学習に取り組む教育活動を支援する</li> <li>・今後もふるさとに愛着と誇りをもち、郷土の発展に積極的に関わろうとする態度をはぐくむことができるよう、地域の素材や外部人材、ICTを活用した学習内容の充実に努める。</li> <li>・学校訪問指導を通して、各教科等において、地域や様々な人との関わりを重視し、学ぶ目的や学び続けることの意義について理解を深める指導の充実に努める。</li> <li>・副読本にICTを活用した学習例を示すなど、児童・生徒の興味を引く内容を取り入れるため、掲載内容の充実・改善に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中で連携した、中学校区単位での、企業、社会教育等を巻き込んだ組織的な取り組みが求められる。少子高齢化、人口減少が進む中で、地域振興、産業振興に取り組んでいる人、団体から学ぶ機会を増やし、継続的な関係の構築を期待する。</li> <li>・学校長や教員のリーダーシップによって、地域の特色を活かした教育活動が展開されることを期待する。</li> <li>・小中学校の統合が進み、学区が広がっていく中で、個々の地域の文化や歴史に触れる機会が減少していくことが懸念される。地域ごとに多様な文化や歴史があることに児童生徒が気付けるような教育機会の充実に努めていただきたい。</li> </ul>

目標 1	志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ教育の充実
施策の方向性 1	豊かな人間性の育成
施策 4	読書活動の充実

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
小・中学校図書 of 整備・更新 (総務課)	各校の既存図書の計画的な更新に努めるとともに、国の第6次「学校図書館整備等5か年計画」に基づき、小学校で2紙以上、中学校で3紙以上の新聞購読について働きかけを行い、小学校28校、中学校15校で購読した。 【令和4年度図書充足率】 小学校115.6%、中学校127.9%
学校図書館の活用に関する研修の推進 (教育研究所)	学校図書館担当教員と学校司書が共に学ぶ「学校図書館担当・学校司書研修会」を実施し、発達の段階に応じた読書活動推進のための手立てや、学校図書館の効果的な活用などについて理解を深めた。また、学校司書学習会を実施し、学校図書館を活用した読書活動のあり方などについて学ぶ機会の充実に努めた。 【令和4年度研修参加者】 ・学校図書館担当・学校司書研修会 79人（うち学校司書 25人） ・学校司書学習会 25人（2回）
学校司書の配置 (学校教育課)	全小・中学校に学校司書25人を配置し、学校図書館の環境整備や児童生徒の読書活動および学習活動の支援の充実に努めた。 学校司書の学習会を年2回実施し、学校図書館の効果的な活用のあり方について共通理解を図った。

<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p>【現状（課題・成果等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校ともに図書充足率が100%を越えており、また、すべての学校に司書を配置していることから、物的整備・人的整備としては一定の成果を上げている。今後は、取組内容を一層充実させるための支援を継続する。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校図書館担当・学校司書研修会」「学校司書学習会」を実施し、発達の段階に応じた読書活動のあり方などについて学ぶ機会の充実に努める。</li> <li>・引き続き、児童生徒の興味・関心に応じた図書の選定を行うとともに、全国学校図書館協議会の基準を参考に、計画的に図書の更新を行い、学校図書館の整備・充実に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館が図書に限らず、情報メディアのセンターとして機能し、すべての教育課程と連携できるように強化してほしい。学校司書がチーム学校の一員として、教職員と連携し、子どもたちの成長発達に主体的に関与できるようにしていただきたい。</li> <li>・学校司書の配置によって、学校図書館の環境整備が進められており、効果が見られることは素晴らしい。</li> <li>・地域図書館との連携についても、更なる充実に努めていただきたい。</li> </ul>

目標 1	志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ教育の充実
施策の方向性 2	確かな学力の育成
施策 1	学習指導の充実

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
学校訪問指導や研修の充実 (学校教育課) (教育研究所)	学校訪問指導や各教科等の専門研修を通して、確かな学力をはぐくむ学習指導や各教科等における I C T の効果的な活用について指導・助言を行った。 【令和 4 年度学校訪問数】 小・中・高等学校等 68校、95回
基礎学力調査の実施と調査結果の活用 (教育研究所)	小学校 5 年生、中学校 2 年生を対象に調査を実施し、本市児童生徒の学力の状況の把握に努めた。調査後の分析結果に基づき作成した指導資料「授業改善のポイント」、全国学力・学習状況調査と関連させた指導資料「学習指導改善の方策」を各校に配布するとともに、学校間ネットワーク等を通じて活用の推進を図った。
全市一斉授業研究会の実施 (教育研究所) (学校教育課)	中学校において、全市一斉授業研究会を開催した。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、協議会当日は、事前視聴した提示授業や単元構成等について協議を行い、授業づくりのあり方などについて理解を深めた。 小学校においては、全ての教員が教科等の研修に参加し、確かな学力をはぐくむ学習指導や I C T の効果的な活用のあり方などについて研修を深めた。 【令和 4 年度実績】 ・全市一斉授業研究会 446人 (1 研修) ・教科等の研修会 のべ665人 (14研修)
小・中学校教師用教科書・指導書の購入 (学事課)	小・中学校分は、教員の配置により不足する教師用教科書・指導書を購入した。 また、新設された特別支援学級の指導にあたる教師用教科書・指導書を購入した。
小・中学校理科教育設備等の整備 (学事課)	学習環境の充実を図るため、小学校 4 校、中学校 2 校に対し、理科教育振興法に基づく理科設備および算数・数学設備を整備した。 【令和 4 年度実績】 ・小学校 理科 四ツ小屋小、勝平小 算数 仁井田小、土崎南小 ・中学校 理科 秋田北中 数学 飯島中

<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p>【現状（課題・成果等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでも物的・人的支援の両面に配慮しながら、教育環境の整備に努めてきたところである。今後は、教員の大量退職による、ベテラン教員の指導技術の継承、若手教員や中堅教員の育成に加え、教育の情報化に対応するための教員のICTスキル向上が必要である。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き、学校訪問や専門研修等を通して、指導・助言を行うほか、小学校においては全市一斉授業研究会の開催、中学校においては、全ての教員の教科等研修への参加により、確かな学力をはぐくむ学習指導やICTの効果的な活用のあり方などについて研修を深める。</li> <li>・ 基礎学力調査については、本市児童生徒の課題を踏まえた調査問題を作成し、調査結果の分析をもとに指導資料を作成するとともに、学校訪問指導や教科の研修において活用し、授業力の向上を図る。また、各校における学習指導の改善に一層資することができるよう、調査の内容等について見直しを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 確かな学力の形成に向けた多様な取り組みが行われており、今後も継続的に取り組んでほしい。競争による優勝劣敗ではなく、課題がある学校、学級などについては、十分な支援とともに、条件整備・環境整備が行われるようにしてほしい。</li> </ul>

目標 1	志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ教育の充実
施策の方向性 2	確かな学力の育成
施策 2	I C Tを活用した教育の推進

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
I C T活用の推進 (教育研究所) (学校教育課)	<p>指導主事が全ての小・中学校を訪問し、各校の要望を踏まえた I C T活用推進講習会や、個人のスキル等に応じて学ぶことができる I C T活用研修会を実施した。各教科等の研修においては、I C Tを活用した授業づくりやデジタル教科書の活用について理解を深めた。</p> <p>指導資料「タブレット端末活用事例集」を作成し、各校に配布するとともに、学校間ネットワーク等を通じて活用の推進を図った。</p> <p><b>【令和4年度実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ I C T活用推進講習会 市立全小・中学校において実施</li> <li>・ I C T活用研修会 のべ97人（4研修）</li> <li>・ 各教科等の研修会 のべ665人（14研修）</li> </ul>
課題別研修（I C Tを活用した教育の推進）の推進 (教育研究所)	<p>課題研究推進校を牛島小学校および御所野学院中学校に委嘱し、I C Tを活用した教育について研修を深めた。市内各校の代表者が参加する実践発表会を行うとともに、その様子を収めた動画を学校間ネットワークに保存し、課題研究推進校における研究成果の共有を図った。</p>

<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p><b>【現状（課題・成果等）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員のICTスキルの向上は見られるものの、ICTを活用した指導力のさらなる向上が必要である。</li> </ul> <p><b>【対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各校の要望を踏まえた訪問研修を継続するとともに、教科等の研修において、ICTの効果的な活用について理解を深める。</li> <li>・授業実践事例等をまとめた指導資料を作成し、学校訪問指導や教科等の研修において活用する。また、タブレット端末の持ち帰りのための実証実験を行い、さらなるICT活用の推進を図る。</li> <li>・課題研究推進校を仁井田小学校および勝平中学校に委嘱し、ICTを活用した教育の推進について研究するとともに、実践発表会等により、研究成果の共有を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用に関する研修会・講習会、事例集の配布などはぜひ継続・拡大し、教職員全員にその効果が浸透するようにしてほしい。誰にも得意不得意があるので、教職員についても、子どもたちについても個別の丁寧なフォローが必要となる。</li> <li>・今後も、ICTの効果的で現実的な活用を検討し、学校間や学校内でのデジタル格差が広がらないように配慮しながら推進されることを期待する。</li> </ul>

目標 1	志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ教育の充実
施策の方向性 2	確かな学力の育成
施策 3	グローバル化に対応した教育の推進

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
外国語指導助手の派遣 (学校教育課)	11人の新規ALTを含む36人のALTを市立小・中学校および高等学校等に派遣し、英語によるコミュニケーション能力を高める指導の充実を図るとともに、異なる文化や価値観、生き方にふれる機会を設けた。
英語教育の推進に向けた研修の充実 (教育研究所)	秋田大学と連携し、小学校教員を対象とした「英会話研修会」を実施し、クラスルーム・イングリッシュ(※)を意識した外国語科、外国語活動の指導方法について理解を深めた。 「外国語科、外国語活動研修会」を実施し、授業づくりと評価のあり方、ICTの活用について理解を深めた。 【令和4年度研修会参加者】 英会話研修会 20人、外国語科、外国語活動研修会 37人
イングリッシュスクールの実施 (学校教育課)	希望する小学校において、イングリッシュスクールⅠ(児童生徒対象)を開催し、児童とALTが英語によるアクティビティを楽しむ活動を実施した。 希望する小学校において、イングリッシュスクールⅡ(教職員対象)を開催し、英語でのアクティビティの進め方などについての研修を実施した。 【令和4年度実績】 イングリッシュスクールⅠ 1回 307人、イングリッシュスクールⅡ 1回 22人
小学校外国語活動外部指導者の派遣 (学校教育課)	小学校中学年の各クラスにネイティブスピーカーを派遣し(実施時間の4分の1程度、年間各クラス9時間)、外国語活動の充実を図った。 【令和4年度派遣実績】 8人
日本語指導支援サポーターの派遣 (学校教育課)	日本語指導支援サポーターを派遣し、授業において言葉を置き換えたり、理解しづらい言葉を分かりやすく説明したりするなど、児童生徒一人ひとりの状況に応じた支援に努めた。 【令和4年度派遣実績】 36人(対象児童生徒41人)

※ クラスルーム・イングリッシュ

小学校外国語活動、外国語科の授業において用いられる、あいさつや指示、称揚などの英語表現。



<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p>【現状（課題・成果等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル社会に対応した英語によるコミュニケーション能力の育成を継続してきており、今後もコミュニケーション能力をはぐくむ指導の一層の充実に努める。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「英会話研修会」や「外国語科、外国語活動研修会」を実施するとともに、全市一斉授業研究会における小学校外国語科の授業研究会の開催により、教員の授業力の向上に努める。</li> <li>・グローバル社会に対応した英語によるコミュニケーション能力育成のため、今後もすべての小・中学校および高等学校等にALTを派遣するとともに、外国語活動外部指導者の派遣により、学級担任（外国語専科を含む）や英語科教諭とのTTを実施し、コミュニケーション能力をはぐくむ指導の一層の充実に努める。</li> <li>・日本語指導支援サポーターの確保に努めるとともに、研修会を実施し、個に応じたきめ細かな支援の充実に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋田市でも、学校外で英語に触れる機会は少ないが、英会話スクールなどに頼らなくても、すべての子どもが英語に触れられるような機会の創出、工夫を望む。</li> </ul>

目標 1	志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ教育の充実
施策の方向性 3	健やかな心と体の育成
施策 1	保健教育の充実

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
副読本「わたしたちの健康」の作成 (学校教育課)	二次元コードを掲載し、タブレット端末で歯磨きの動画資料を視聴できるようにするなど、内容の改善を図った。
フッ化物洗口の実施 (学事課)	児童生徒のむし歯予防対策の推進と自らの健康づくりに対する理解を深めるため、全市立小・中学校に在籍する児童生徒のうち、希望する者を対象にフッ化物洗口を実施した。毎年の歯科検診では平均むし歯本数(※1)の減少が見られ、成長期におけるフッ化物洗口は効果的であることが確認できた。 【令和4年度実績】 小学校：対象者数13,023人、参加者数12,002人、参加率92.2% 中学校：対象者数6,690人、参加者数6,055人、参加率90.5%
健康教育推進関係団体への支援 (学事課)	秋田市学校保健会が実施する児童生徒に対する健康教育の充実に資する事業等に対して補助金を交付した。「秋田市学校保健大会」は新型コロナウイルス感染症を考慮し、養護教諭部と保健主事部による研究発表をいつでも繰り返し視聴できるオンデマンド配信で開催したところ、多くの方が視聴し、アンケート集計結果で好評を得た。また、新型コロナウイルス感染症対策のため、空気の乾燥を防ぐ超音波加湿器を26台購入し、各中学校区毎に1台、小学校の大規模校(日新小学校、勝平小学校、大住小学校、桜小学校)へ貸し出した。 【令和4年度実績】 「秋田市学校保健大会」のオンデマンド配信、超音波加湿器の購入・貸出(26台)

【参 考】

※1 12歳児の(中学校1年生)のむし歯本数の推移

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
秋田市	2.10本	1.96本	1.69本	1.55本	0.94本	0.94本	0.86本	0.79本	0.71本	0.67本	0.59本	0.54本	0.46本
秋田県	1.9本	1.8本	1.6本	1.3本	1.1本	1.1本	0.8本	0.8本	0.7本	0.7本	0.6本	0.5本	—
全 国	1.30本	1.20本	1.10本	1.05本	1.00本	0.90本	0.84本	0.82本	0.74本	0.70本	0.68本	0.63本	—

<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p>【現状（課題・成果等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フッ化物洗口の効果が着実に現れていることから、取組を継続するとともに、子どもたちが自らの心身の健康についての理解を深めるため、興味・関心を引きつける教材や、事業の充実を図る必要がある。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・副読本「わたしたちの健康」において、新たなデジタルコンテンツを掲載するなど、引き続き内容の充実・改善に努める。</li> <li>・今後もフッ化物洗口事業を継続するとともに、令和5年度から学事課専任の歯科衛生士を各校に派遣し、学校とさらに連携を深めながら、実施状況の確認や指導助言等を行う。</li> <li>・児童生徒に対する健康教育のさらなる充実のため、引き続き関係団体の支援に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍も完全に抜け出したとは言えないが、健康や感染症に対する意識が低下してくることから、子どもたちとともに、PTA等を通じた保護者に対する啓発についても、継続的に取り組んでいただきたい。</li> </ul>

目標 1	志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ教育の充実
施策の方向性 3	健やかな心と体の育成
施策 2	体力の向上

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
体力の向上や体育学習の授業改善を図る指導資料の作成 (教育研究所) (学校教育課)	本市児童生徒のこれまでの新体力テストの結果を経年比較し、課題とされる疾走能力や投球能力などの向上をねらいとした指導資料を作成し、各校に配布するとともに、実践例の動画を学校間ネットワークに保存し、周知を図った。
小学校地区別陸上運動記録会の実施 (学校教育課)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としたが、各校で、100m走や60mハードル走、走り幅跳びや走り高跳び等の記録の測定を行うことを通して、児童が自らの目標に向かって運動に取り組むことができるよう努めた。
中学校部活動外部指導者の派遣 (学校教育課) (P 36に再掲)	担当する種目の指導に堪能でない教員の技術指導の補助を行う外部指導者を派遣し、部活動指導の充実を図った。 【令和4年度派遣実績】 派遣人数50人、派遣校数17校
部活動指導員の配置 (学校教育課) (P 38に再掲)	部活動を担当する教員に代わり、技術指導や大会等の引率を行うことを可能とする指導員を配置し、教員の多忙化の軽減を図るとともに、部活動の活性化に努めた。 【令和4年度配置実績】 配置人数18人(運動部16人、文化部2人)、配置校数16校
全日本中学校バレーボール選手権大会の開催市負担 (学事課)	本市と由利本荘市で開催された令和4年度全国中学校体育大会第52回全日本中学校バレーボール選手権大会実行委員会に対し、開催市負担金を支出し、本事業は終了した。

<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p>【現状（課題・成果等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的に子どもの体力は低下傾向にあることから、体力・運動能力の向上にあたっては、体育科の学習の充実および日常的な運動習慣の確立が必要である。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動に親しみながら体力の向上につながる授業実践例をまとめた指導資料を作成し、学校訪問指導や研修等において活用する。</li> <li>・令和5年度は、陸上記録会を開催し、体力向上への意欲を高めるとともに、児童同士の親睦を深めることができるよう努める。</li> <li>・部活動については、学校の要望に応じて外部指導者を派遣し、技術面の支援をするほか、専門的な知識・技能を有する部活動指導員を配置し、教員の多忙化を軽減するとともに、引き続き部活動の質的向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算の制約はあるが、外部指導者の派遣や部活動指導員の配置を積極的に進め、子どもたちの体力、競技力等の向上とともに、特に中学校の教職員の負担軽減、時間外労働の改善に努めていただきたい。</li> <li>・今後も、部活動の外部指導者の派遣が推進されると思うが、生徒と外部指導者と学校教職員が適切にコミュニケーションをとることにより、よりよい関係づくりと部活動の運営に努めていただきたい。</li> </ul>

目標 1	志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ教育の充実
施策の方向性 3	健やかな心と体の育成
施策 3	食育の推進

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
給食献立作成委員会による献立作成 (学校教育課)	献立作成委員会を年3回実施し、食物アレルギー対応に配慮しながら、除去食や代替食の献立を含めた、学校給食摂取基準に基づく統一献立を提供した。
「まるごと秋田を食べよう給食」の 実施 (学校教育課)	秋田の農産物やそれらを使用した献立を紹介するリーフレットを作成し、家庭への情報提供に努めた。また、肉かやきやいぶりがっこなど、給食に郷土料理や地場産物を使用した献立を提供するなどして、秋田の食文化にふれる機会の充実を図った。
「食から秋田を知ろう～秋田市民市場を活用して～」の実施 (学校教育課)	児童が秋田市民市場での買い物体験や、野菜の収穫体験などの活動を通して、秋田の食の豊かさについて学んだ。 【令和4年度実績】 参加児童数 小学校6校、137人
学校訪問指導や研修の充実 (学校教育課) (教育研究所)	学校訪問指導を通して、各教科等との関連を図った指導や栄養教諭等の専門性を生かしたTT指導などの効果的な食育の指導のあり方について共通理解を図った。また、教職員研修会において、学校給食を活用した食に関する指導や、食物アレルギー対応について共通理解を図った。 【令和4年度学校訪問数】 7校 【令和4年度研修会参加人数】 栄養教諭・学校栄養職員研修会26人、学校給食支援員研修会24人
学校給食支援員の配置 (学校教育課) (P66に再掲)	学校給食支援員を配置し、給食に関わる事務の円滑な処理を推進した。 また、「学校給食支援員研修会」を通して、食物アレルギー対応および異物混入の防止等、学校給食の安全確保の周知・徹底を図った。 【令和4年度配置実績】 ・栄養教諭および学校栄養職員未配置校への配置 18校、18人 ・食物アレルギー対応の多い学校への配置 9校、5人 ・給食施設改修工事のための配置 1校、1人

<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p><b>【現状（課題・成果等）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが食への感謝の気持ちや郷土の食文化への誇りをはぐくむことができるよう、引き続き、学校給食を活用した食に関する指導や、各教科等との関連を図った組織的な指導を推進する必要がある。</li> </ul> <p><b>【対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食における栄養管理や地場産物の活用、食物アレルギー対応の充実を図り、食育推進に効果的な献立の作成と提供に努めるほか、今後もリーフレットの作成や学校給食を活用した食に関する指導の充実および体験活動の推進に努める。</li> <li>・教員に対しては、学校訪問指導や「栄養教諭・学校栄養職員研修会」において、各教科等との関連を図った指導や栄養教諭等の専門性を生かした効果的なTT指導などについて共通理解を図り、引き続き食育の指導の充実に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物アレルギーへの対応や食材の高騰など、学校給食をめぐる環境は厳しいが、すべての子どもに豊かな食を保障するため、充実を期待する。保護者への啓発も重視していただきたい。</li> <li>・秋田の農産物を使用した給食の提供は、食育と郷土学習と環境教育をつなぐものでもあり、今後も推進していただきたい。物流の発展に伴い、食べ物の生産過程や従事者について知る機会が減っている。地元での農業体験や農家との交流を持てるような機会を、引き続き設けていただきたい。</li> </ul>

目標 1	志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ教育の充実
施策の方向性 4	今日的な課題に対応した教育の充実
施策 1	いじめ問題への対応

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組の推進 (学校教育課)	各校で、「学校いじめ防止基本方針」について全職員で共通理解を図り、組織的な対応に努めるとともに、いじめの起こりにくい環境づくりに向け、道徳教育の充実や自己有用感を高める取組を推進した。月ごとの調査等により、各校のいじめの実態を迅速に把握して状況を確認するとともに、適切な対応に努めた。
いじめ防止の取組を推進する研修の充実 (教育研究所)	「いじめ防止・対応等研修会」を実施し、いじめの未然防止や、いじめを認知した際の組織的な対応などについて理解を深めた。 初任者研修や「新任生徒指導主事研修会」の際に、秋田市いじめ対策委員会において作成した「秋田市いじめ防止リーフレット」を活用し、いじめの未然防止や早期発見、関係機関との連携などについて理解を深めた。 【令和4年度研修会参加者】 いじめ防止・対応等研修会 57人、初任者研修 60人、新任生徒指導主事研修会 11人
子ども主体のいじめ防止に向けた取組の推進 (学校教育課)	学級活動、児童会・生徒会活動等における子ども主体の取組を通して、子どもたちの中から「いじめの起こりにくい学校づくり」の気運の醸成を図った。 児童会・生徒会活動における子ども主体のいじめ防止の取組について、実践例を紹介するなど、情報共有を図りながら推進した。 【令和4年度実績】 児童会・生徒会活動等がいじめ防止の取組を図った学校 48校
秋田市いじめ対策委員会の運営 (学校教育課)	年3回のいじめ対策委員会における協議内容や助言等を踏まえ、本市のいじめの未然防止、組織的な対応等の取組の充実を図った。
いじめ防止に係る啓発活動の推進 (学校教育課)	「いじめ防止リーフレット」に、いじめ防止に関わる相談機関を示すとともに、ネットいじめへの対応や未然防止に向けた取組例を掲載するなど、内容の充実を図った。 【令和4年度研修会参加者】 いじめ防止・対応等研修会 60人、初任者研修 60人、中堅教諭等資質向上研修 8人、新任生徒指導主事研修会 11人



<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p>【現状（課題・成果等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いじめは、どの学校でも起こり得るとの危機意識のもと、いじめを認知した際の初期対応等について、学校訪問や生徒指導連絡協議会、教職員研修等を通して指導・助言を行うとともに、秋田市いじめ対策委員会の助言等も生かしながら、より迅速で適切な対応に努めていく必要がある。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校訪問指導や教職員研修、校長会等、あらゆる機会を通して、基本方針に基づいたいじめ防止の取組が推進されるよう指導・助言を行う。</li> <li>・ 「いじめ防止・対応等研修会」「新任生徒指導主事研修会」、初任者研修等において、いじめの未然防止や組織的な対応のあり方について取り上げ、いじめ防止の取組について理解を深める研修の充実に努める。</li> <li>・ いじめ対策委員会における協議内容や助言等を踏まえ、本市のいじめの未然防止、組織的な対応等の取組の充実を図るほか、「いじめ防止リーフレット」に、本市のいじめの実態や相談機関、今日的な課題等を掲載するなど、内容の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍の影響はいじめにも及んでいると思われる。発生した場合の早期発見と早期対応とともに、いじめが起きない学校づくり、学級づくり、さらに授業づくりに取り組んでいただきたい。</li> <li>・ 引き続き、いじめ防止に向けた取組を充実させるとともに、早めにいじめに気づき、対応できるような環境整備に努めていただきたい。</li> </ul>

目標 1	志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ教育の充実
施策の方向性 4	今日的な課題に対応した教育の充実
施策 2	不登校児童生徒への支援の充実

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
教育相談体制の充実 (学校教育課)	<p>不登校児童生徒一人ひとりの状況や家庭環境などに応じた支援がなされるよう、スクールカウンセラー(※1)や広域カウンセラー、スクールソーシャルワーカー(※2)の活用について周知を図った。各校においては、ケース会議や校内研修等でカウンセラー等から助言を受け、子どもや保護者への支援に生かすなど、取組の充実を図った。</p> <p><b>【令和4年度活用件数】</b>            小学校 広域カウンセラー219件、スクールカウンセラー68件            中学校 スクールカウンセラー2,748件</p>
不登校の未然防止を図る研修の充実 (教育研究所)	<p>「不登校対応研修会」「教育相談担当等研修会」、初任者研修等において、不登校の未然防止や不登校児童生徒、その保護者への支援のあり方について理解を深めた。また、「学級づくり・集団づくり研修会」「講師研修会」では、Q-U調査を活用した学級集団づくりについて理解を深めた。</p> <p>課題研究推進校の実践発表会を開催し、不登校傾向の生徒へのICTを活用した支援について周知を図った。</p> <p><b>【令和4年度研修会参加者】</b>            不登校対応研修会 58人、教育相談担当等研修会 56人、初任者研修 60人            学級づくり・集団づくり研修会 15人、講師研修会 32人</p>
教育支援センター「すくうる・みらい」の運営 (学校教育課)	<p>「すくうる・みらい」では、人との関わりを通して自尊感情をはぐくむとともに、体験活動等を行い、達成感や自己有用感、自己肯定感を味わうことができるよう努めた。また、専門相談員によるカウンセリングの実施により、子どもやその保護者に対する相談活動の充実を図った。</p> <p>人との関わりに苦手意識をもつ児童生徒の自宅にフレッシュフレンド(※3)を派遣し、他者と関わる機会の充実に努めた。</p> <p><b>【令和4年度派遣回数】</b>143回</p> <p>「心のふれあい相談会」を年2回開催し、臨床心理士による個別相談を実施するとともに、保護者と臨床心理士による座談会を通して、不登校に悩む児童生徒の保護者同士が語り合う機会を設けた。</p> <p><b>【令和4年度実績】</b>座談会 28人、個別相談 28人</p> <p>①令和4年度「すくうる・みらい」利用実績            相談件数96件、年間来級者数70人、児童生徒入級者数26人</p> <p>②「すくうる・みらい」体験活動            自然体験年4回、スポーツ体験(県立体育館等)年7回、読書活動(県立図書館)年9回、外国語活動年7回、読み聞かせ年6回、実験体験、科学工作(自然科学学習館)年1回</p>

<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p><b>【現状（課題・成果等）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市の不登校児童生徒数は年々増加している。また、引きこもり傾向者および関係機関との連携が図られていない児童生徒も増加しており、一人ひとりの状況に応じた支援の充実が必要である。</li> </ul> <p><b>【対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校児童生徒およびその保護者に対しては、不登校対応コーディネーター（※4）や教育相談担当等を中心に、引き続きスクールカウンセラーや各関係機関、ICTの活用などの情報を提供し、積極的な活用を促す。</li> <li>・令和5年度から新たに実施する「すくうる・みらい」におけるタブレット端末を活用したオンライン等による支援や、引き続き実施するフレッシュフレンド事業について、一層の周知に努めるほか、「心のふれあい相談会」を年2回開催し、保護者同士のつながりや臨床心理士、関係機関との関わりを支援する。</li> <li>・「不登校対応研修会」「教育相談担当等研修会」、初任者研修等において、不登校の未然防止や不登校児童生徒、その保護者への支援のあり方について理解を深める研修の充実を努める。また、「学級づくり・集団づくり研修会」「講師研修会」において、Q-U調査の効果的な活用の仕方などについて理解を深める研修の充実を努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の影響は不登校にも及んでいると思われる。子どもや保護者の悩みに寄り添いながら、多様な学習機会の確保、そして、不登校が起きない学校づくり、学級づくり、授業づくりに取り組んでいただきたい。</li> </ul>

**※1 スクールカウンセラー**

学校に配置され、生活上の問題や悩みを抱える児童生徒および保護者の相談に応じるとともに、教師に対する指導・助言等を行う臨床心理士等。

**※2 スクールソーシャルワーカー**

いじめ、不登校等の生徒指導上の課題に対応するため、関係機関との連携を促進するなど、教育や福祉の分野において専門的な知識、経験を有する者。（元校長、社会福祉士等の資格をもつ者）

**※3 フレッシュフレンド**

不登校およびその傾向をもつ児童生徒に対して、学校と連携を図りながら、家庭に派遣する学生。人間的なふれあいを深めることを中心に、共に遊びや学習等様々な活動・体験を行う。

**※4 不登校対応コーディネーター**

不登校の未然防止や不登校傾向にある児童生徒に対して組織的に対応する際に中心となる教職員。（教頭や教育相談担当教員など）

目標 1	志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ教育の充実
施策の方向性 4	今日的な課題に対応した教育の充実
施策 3	特別支援教育の充実

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
学校訪問指導や研修の充実 (学校教育課) (教育研究所)	<p>学校訪問指導を実施し、各校の特別支援教育に関わる取組状況や課題の解決に向けた指導・助言の充実に努めた。</p> <p>特別支援教育に関する研修会を実施し、障がい種別の指導や支援のあり方、支援体制の構築、関係機関との連携等について共通理解を図った。</p> <p><b>【令和4年度学校訪問・教職員研修実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家支援チームによる相談支援 のべ29回</li> <li>・ 特別支援教育研修会 65人</li> <li>・ 特別支援教育コーディネーター研修会 64人</li> <li>・ 特別支援学級新担任研修会(障がい種別) 44人</li> <li>・ 特別支援学級担任研修会(障がい種別) 136人</li> </ul>
小・中学校特別支援学級新設に伴う整備 (学事課) (P 63に再掲)	<p>児童生徒の障がいに適応した教育を行うため、新設された特別支援学級に対し、指導上必要な教材等の整備を行った。</p> <p><b>【令和4年度実績】</b></p> <p>小学校 8 学級、中学校 9 学級</p>
学級生活支援サポーターの派遣 (学校教育課)	<p>教育活動全般において、特別な支援を必要とする児童生徒の学校生活を支援するため、学校の要望に応じて学級生活支援サポーターを派遣した。</p> <p><b>【令和4年度派遣実績】</b></p> <p>小学校38校、中学校20校に220人(昨年度比12人増)</p>
学校行事等支援サポーターの派遣 (学校教育課)	<p>運動会や校外学習など校内外の学校行事等において、特別な支援を必要とする児童生徒の学習活動を支援するため、学校の要望に応じて学校行事等支援サポーターを派遣した。</p> <p><b>【令和4年度派遣実績】</b></p> <p>派遣回数101回、派遣時間902時間</p>

<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p>【現状（課題・成果等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級に在籍する児童生徒や、通常の学級においてサポーターの支援を受ける児童生徒が毎年増加しており、一人ひとりの状況や教育的ニーズを踏まえた適切な支援が求められる。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいの特性に応じた指導・支援が行われるよう、引き続き学校訪問指導や研修を通して校内の支援体制の充実を図るほか、教職員の専門性を高める研修の充実を図る。</li> <li>・特別な支援を必要とする児童生徒の増加や支援内容が多様化している状況を踏まえ、学級生活支援サポーターや医療的ケア看護職員の派遣など、支援体制の充実に努めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の必要も増している。学校訪問指導や研修、特別支援学級の整備、各種サポーターの派遣など、さらなる充実を期待する。すべての子どもたちにとって過ごしやすい学校づくり、学級づくり、授業づくりを期待する。</li> </ul>

目標 1	志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ教育の充実
施策の方向性 4	今日的な課題に対応した教育の充実
施策 4	情報モラル教育の充実

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
情報モラル教育の推進に向けた研修の充実 (教育研究所)	「情報教育主任研修会」「新任生徒指導主事研修会」、初任者研修において、本市におけるネットトラブルの実態や、情報モラル教育推進のための取組について理解を深めた。 【令和4年度研修参加者】 情報教育主任研修会 62人、新任生徒指導主事研修会 11人、初任者研修 60人
ネットトラブル防止に係る啓発活動の推進 (学校教育課)	「ネットリテラシーの育成に向けた協議会」作成のリーフレットをもとに、学校運営協議会や学級・学年PTAで話題にするなど、家庭と連携した取組を推進した。 「中学生サミット」において、生徒同士でインターネットやSNS等とのよりよい付き合い方について協議を行い、「デジタルネイティブ宣言」を作成して、各校での取組につなげた。

今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)	学識経験者の意見等
<p>【現状（課題・成果等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ネットやメール、SNSを介したトラブルが毎年発生していることから、ネットトラブルの未然防止に向けた取組に加え、情報モラル教育を充実させることが必要である。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「情報教育主任研修会」「新任生徒指導主事研修会」「いじめ防止・対応等研修会」、初任者研修、中堅教諭等資質向上研修において、情報モラル教育の指導のあり方などについて理解を深める研修の充実に努める。</li> <li>児童生徒に対しては、主体的に責任を持ってICTを活用する力をはぐくむことができるよう、引き続きリーフレットを作成するなどして、家庭と連携した取組を推進する。また、中学生サミットにおいて、各校における実践を情報共有するなどし、生徒主体による取組の推進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNSなどがいじめにつながるケースが多く、情報モラル教育は必須となっている。PTAなどを通じた保護者への啓発も重要である。</li> <li>これからもネットやメール、SNSを介したトラブルは発生すると思われる。トラブルやリスクの事例をより多く学び、防止や対策に学校関係者全体で取り組むことが重要である。</li> <li>また、問題が発生した際には、すぐに児童生徒が相談や報告ができる環境や、学校側が適切に対処できるよう教職員研修などにも力を入れていく必要がある。</li> </ul>

目標 1	志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ教育の充実
施策の方向性 4	今日的な課題に対応した教育の充実
施策 5	防災教育の充実

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
防災教育の推進に向けた研修の充実 (教育研究所)	<p>「学校安全・防災教育研修会」において、秋田地方気象台から講師を招へいし、防災気象情報を活用した災害対応について理解を深めた。また、防災安全対策課の職員を講師に招へいし、水害からのリスク回避や避難所開設の流れなどを確認するとともに本市の防災の取組等について理解を深めた。</p> <p>初任者研修において、防災教育の進め方等について理解を深めた。</p> <p><b>【令和4年度研修会参加者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校安全・防災教育研修会 55人</li> <li>・初任者研修 60人</li> </ul>
避難訓練や防災教室の実施 (学校教育課)	<p>発生時刻や災害種など様々な状況を想定した避難訓練を行い、非常時に主体的に判断し行動する力を身に付けさせるとともに、専門的な知識を有する関係機関と連携した防災教室を実施し、防災意識の醸成に努めた。</p> <p><b>【令和4年度実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練（地震）小41校、中22校 （火災）小36校、中24校 （津波）小18校、中11校 （洪水）小14校、中6校 （土砂崩れ）小7校、中5校 （地域住民との連携）小6校、中2校</li> <li>・防災教室 小15校、中6校</li> </ul>
防災計画の見直し (学校教育課)	<p>防災安全対策課と連携し、各校の学校防災計画を見直し、地域の地理的条件等を踏まえた防災計画や避難訓練の改善を図った。</p>

<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p>【現状（課題・成果等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年大雨や台風による水害等が増加していることから、児童生徒に非常時にも主体的に判断・行動できる力をはぐくみ、防災意識を醸成することが必要である。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校安全・防災教育研修会」、初任者研修において、防災教育のあり方について理解を深める研修の充実に努める。</li> <li>・引き渡し訓練の実施や地域の防災訓練への参加などについて、学校運営協議会等で協議し、家庭や地域と連携・協働した取組の充実に努めるとともに、防災安全対策課と連携し、各校において学校防災計画の不断の見直しが図られるよう、指導・助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年7月の秋田市の大雨被害もあって、災害は身近で、予想しないところ、時に起こることが実感されたところである。東日本大震災からも12年が経過したが、風化させない取り組みを期待する。</li> <li>・秋田市で大規模な水害が発生したことから、学校現場においても、様々な自然災害への知識と防災意識を高めていくことが重要である。</li> </ul>



目標 1	志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ教育の充実
施策の方向性 5	教育の質を高める体制の充実
施策 1	教職員研修の充実

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
教職員研修の充実 (教育研究所)	<p>教職員として求められる資質や能力の向上を図るため、教職キャリア指標に応じた体系的な研修や、多様な教育課題に対応する能力を高める研修を実施するとともに、教員の世代交代を視野に入れた研修の充実に努めた。</p> <p>全ての小学校教員が教科等の研修に参加し、授業づくりや評価のあり方、ICTの効果的な活用について理解を深めた。また、中学校において、全市一斉授業研究会を開催した。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、協議会当日は、事前視聴した提示授業や単元構成等について協議を行い、授業づくりのあり方などについて理解を深めた。</p> <p>個人のスキル等に応じて学ぶことができるICT活用研修会を実施するなど、教員のICTスキルの向上に努めた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、県外の講師については、オンラインによる講義・演習等を行った。</p> <p><b>【令和4年度実績】</b>(合計63研修 116回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本研修(初任者研修、教職2年目研修、中堅教諭等資質向上研修) のべ945人(3研修)</li> <li>・職務別研修(校長研修会、教務主任研修会、講師研修会など) のべ1,347人(30研修)</li> <li>・専門研修(教科等の研修会、実験・実技講習会) のべ717人(16研修)</li> <li>・課題別研修(特別支援教育研修会、学級づくり・集団づくり研修会、ICT活用研修会など) のべ304人(7研修)</li> <li>・特別研修(いじめ防止・対応等研修会、若手教員研修会、ミドルリーダー研修会、学校安全・防災教育研修会など) のべ264人(6研修)</li> <li>・全市一斉授業研究会 446人(1研修)</li> </ul>

※ 本市が実施している教職員研修後の状況(令和4～令和2年度教育経営に関する調査)

	肯定的な回答をした教員の割合		
	令和4年度	令和3年度	令和2年度
①研修前と比べて、研修内容についての課題意識が高まった	99.8%	98.7%	98.4%
②研修前と比べて、研修内容についての知識・理解が深まった	99.8%	99.0%	99.1%
③研修後、研修内容についての指導方法等を工夫・改善した	97.5%	94.7%	94.6%
④研修内容を生かした実践により、児童生徒に変容が見られた	93.2%	84.4%	86.6%

<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p><b>【現状（課題・成果等）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベテラン教員の指導技術の継承、若手教員や中堅教員の育成に加え、教員のICTスキルのさらなる向上が必要である。</li> </ul> <p><b>【対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初任者研修や中堅教諭等資質向上研修、「若手教員研修会」「ミドルリーダー研修会」を実施するなど、教員の世代交代を視野に入れた研修の充実に努める。また、特別支援教育やいじめ防止・対応、学校安全・防災教育など、多様な教育課題に対応する能力を高める研修を実施する。</li> <li>・全ての中学校教員が教科等の研修に参加し、授業づくりや評価のあり方、ICTの効果的な活用などについて理解を深める研修の充実に努めるほか、小学校において全市一斉授業研究会を開催する。また、教員のICTスキルの向上が図られるよう、ICT活用研修会等を実施する。</li> <li>・教職員として求められる資質や能力を高めることができるような研修のあり方について、秋田市教職員研修検討協議会における意見等を踏まえ、次年度の研修に反映する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な教育課題が発生することに対応して、教職員の研修も多様化、増加していることから、精選・総合化するなどして、教職員の負担増加にならないように配慮をお願いする。学習会、学会や民間団体など、自発的な研修への取り組みも盛んにしてほしい。</li> </ul>

目標 1	志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ教育の充実
施策の方向性 5	教育の質を高める体制の充実
施策 2	系統性・連続性を踏まえた教育の充実

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
幼保小の連携のあり方について学ぶ 研修の充実 (教育研究所)	<p>「幼保小連携研修会」を実施し、幼児期の発達や遊びを通じた学び、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続について理解を深めた。また、研修会の内容や様子についてまとめた「幼保小連携研修だより」を作成し、市内の幼稚園や保育所等に配布するとともに、学校間ネットワーク等を通じて周知を図った。</p> <p>「小学校1年新担任研修会」を実施し、子どもの学びの連続性や幼保との連携の重要性について理解を深めた。</p> <p>【令和4年度研修会参加者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保小連携研修会 110人（幼稚園、保育所等の教員・保育士はオンラインによる参加）</li> <li>・小学校1年新担任研修会 9人</li> </ul>
スタートカリキュラムの実践・検証 (学校教育課)	<p>幼稚園や保育所等の職員との情報交換や意見交流をもとに、スタートカリキュラムの検証・改善を図り、子どもの学びと育ちのつながりを意識した幼保小連携の一層の充実に努めた。</p> <p>【令和4年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前に情報交換を実施39校</li> <li>・入学後に情報交換を実施19校</li> </ul>
小中一貫した考えに立った教育の充実 (学校教育課)	<p>一貫性と発展性のある学習指導などの5つの取組の視点をもとに、学校規模や設置形態に応じた小中一貫した考えに立った教育の充実に努めた。また、併設する小・中学校では、中学校教員が、理科や音楽、外国語等の指導に加わるなど、小・中連携した学習指導の充実に努めた。</p>

※1 小学校における、幼稚園、保育所（園）、認定こども園と連携した取組の実施状況（令和2～4年度教育経営に関する調査）

	令和4年度	令和3年度	令和2年度
目指す子ども像などについて、幼稚園、保育所（園）、認定こども園と共通理解を図る。	61.0%	70.7%	70.7%
P D C A サイクルを生かし、スタートカリキュラムの改善を図っている。	65.9%	70.7%	78.0%

※2 各校における視点ごとの取組状況

本市が示している5つの視点	小学校41校			中学校24校		
	成果十分	成果不十分	実施不可	成果十分	成果不十分	実施不可
①一貫性と発展性のある学習指導	36校	2校	3校	21校	2校	1校
②連携を重視した生徒指導	37校	1校	3校	24校	0校	0校
③発達の段階に応じた生き方指導	36校	2校	3校	17校	6校	1校
④児童生徒の交流活動	32校	5校	4校	20校	2校	2校
⑤小中一貫を支える連携体制	38校	1校	2校	21校	1校	2校

※実施不可は、新型コロナウイルス感染症対策のため

今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)	学識経験者の意見等
<p>【現状（課題・成果等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの影響により、幼保小や、小中の連携した取組が思うように実施できない状況下にあったことから、一層の充実が図られるよう、支援する必要がある。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「幼保小連携研修会」「小学校1年新担任研修会」を実施し、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続について理解を深める研修の充実をめるとともに、研修だよりを通じて共通理解を図る。</li> <li>幼稚園や保育所等の職員との連携体制の充実を図るとともに、引き続き、スタートカリキュラムの検証・改善や、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続に努める。</li> <li>同一の中学校区内の小・中学校で、「目指す子ども像」や身に付けさせたい力について共通理解を図るとともに、交流活動の充実に向け、学校運営協議会等で話題にするなど、一層の工夫・改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼保小連携や小中連携は円滑な移行を実現するために大きな効果があることから一層の取り組みを期待する。いじめや不登校、特別支援などの面でも情報共有と、連続的な取り組みが必要になっている。</li> </ul>

目標 1	志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ教育の充実
施策の方向性 5	教育の質を高める体制の充実
施策 3	家庭・地域・関係機関等との連携体制の充実

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
コミュニティ・スクールの充実 (学校教育課)	学校と保護者、地域住民が学校経営ビジョンを共有し、互いに協力し合う体制づくりを図った。各校において、学校運営協議会を年2～3回開催し、自校の教育活動についての情報共有や学校と地域の連携・協働の取組について協議した。また、各協議会の運営の充実が図られるよう、各校の取組事例をとりまとめ、情報共有を行った。 【令和4年度実績】 61協議会、委員526人
「絆づくり教育プラン」の推進 (学校教育課)	学校運営協議会において、地域素材や人材について情報共有を図るとともに、学校報やホームページ等を通して、自校の「絆づくり教育プラン」に基づく取組を家庭や地域に積極的に情報発信するなど、学校と家庭・地域との絆づくりを推進した。
中学校部活動外部指導者の派遣 (学校教育課) (P19より再掲)	担当する種目の指導に堪能でない教員の技術指導の補助を行う外部指導者を派遣し、部活動指導の充実を図った。 【令和4年度実績】 派遣人数50人、派遣校数17校
郷土の伝統や文化等について学ぶ機会 の充実 (学校教育課) (P7より再掲)	社会教育施設や地域の人材等の活用を図り、郷土の自然や歴史、文化、先人の遺業などについて理解を深めるなど、コロナ禍においても、学校や地域の特性に応じた特色ある学習を推進した。

<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p><b>【現状（課題・成果等）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により、校外活動が制限され、家庭や地域と連携した取組が十分にできない状況にあった。</li> </ul> <p><b>【対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・スクール連絡協議会を開催し、取組事例を紹介するなどして、引き続き、各協議会の運営の充実に努める。</li> <li>・各校の特色や地域性を生かした「絆づくり教育プラン」を作成し、保護者や地域の理解と協力を得ながら子ども同士、学校と家庭・地域との絆づくりを推進する。</li> <li>・ふるさとに愛着と誇りをもち、郷土の発展に積極的に関わろうとする態度をはぐくむことができるよう、地域の素材や外部人材、ICTを活用した学習内容の充実に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会が、従来の学校評議員の時代に比べて、質的に違う、レベルアップした活動、効果を発揮できることを期待する。子どもの声を聞いたり、社会教育、企業、各種団体とのつながりも重視していただきたい。</li> <li>・今後も、家庭と地域と学校および関係機関がコミュニケーションを保つことにより、より良い関係づくりにつながることを期待する。</li> </ul>

目標 1	志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ教育の充実
施策の方向性 5	教育の質を高める体制の充実
施策 4	教員の働き方改革の推進

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
多忙化防止計画に基づく業務改善の推進 (教職員室)	<p>教育情報ネットワークによる勤務時間管理簿により、市立小中学校の教職員一人一人の出退勤時刻、時間外勤務時間および持ち帰り仕事を把握し、管理職が職員への個別指導に生かすなど、長時間労働の改善を図った。</p> <p>多忙化防止計画に基づき、各校において、学校行事の削減や規模縮小、諸会議の精選等、業務の見直しを図ることに努めた。</p> <p>市立小中学校の教職員を対象にした多忙感・多忙化に関する意識調査を行い、管理職と教諭それぞれが多忙化の原因と感じている業務や、管理職が捉えている自校の多忙化の状況を把握した上で、学校の実情に応じた業務改善の手立てを校長会と協議した。</p>
外部人材の活用 (教職員室)	<p>児童生徒の支援や部活動の指導などにあたる支援員等の外部人材を市立小中学校に配置、増員することにより、教員の負担軽減を図った。</p> <p><b>【令和4年度配置人数】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級生活支援サポーター 223名</li> <li>・日本語指導支援サポーター 36名</li> <li>・中学校部活動外部指導者 50名</li> <li>・学校行事等支援サポーター 32名</li> <li>・小学校外国語活動外部指導者 8名</li> <li>・学校給食支援員 26名</li> <li>・学校司書 25名</li> </ul>
部活動指導員の配置 (学校教育課) (P19より再掲)	<p>部活動を担当する教員に代わり、技術指導や大会等の引率を行うことを可能とする指導員を配置し、教員の多忙化の軽減を図るとともに、部活動の活性化に努めた。</p> <p><b>【令和4年度配置実績】</b></p> <p>配置人数18人（運動部16人、文化部2人）、配置校数16校</p>

<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p><b>【現状（課題・成果等）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市では、「多忙化防止計画」を策定し、業務の見直しに取り組んできているが、新型コロナウイルス感染症への対応など、新たな業務の増加等により、現状においては、長時間労働が是正されているとは言えない状況にあるため、教員の働き方改革のさらなる推進を図ることが必要である。</li> </ul> <p><b>【対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職が毎日勤務時間管理簿を確認することが可能な新たなシステムの運用を開始することで、自校の職員の勤務実態を踏まえた的確な業務改善につなげる。また、校長会において、ICTを活用した業務の効率化等について協議し、業務の見直しに取り組んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課題の増大に伴い、業務量が増えるばかりで、これまでの努力では長時間労働の是正に至っていない。スクラップアンドビルドが必要である。また、さらなる少人数学級の実現、教員数の増加が求められる。</li> </ul>



目標 1	志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ教育の充実
施策の方向性 6	高等学校教育の充実
施策 1	秋田商業高等学校の教育の充実

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
地域と連携した「ビジネス実践」の充実 (商業高校)	秋田の活性化に向けて取り組む地元生産者と協働した活動や広告代理店によるCM制作に関する講義など、専門的な知識を持つ地域の人材を活用することで、ビジネスにおける即戦力となる人材育成を行った。 また、外部講師を招いて、「秋田の魅力の発見・発信」や「秋田市のSDGsに向けた取り組み」に関する講話を行い、生徒一人一人が持続可能な社会を目指すために何が必要かを考えることができ、より広い視野で次年度のビジネス実践活動計画を立案した。
専門科目の指導の充実 (商業高校)	一人一台タブレット端末の導入により、問題解説動画や学習課題などに生徒がいつでもアクセスできる環境が整った。組織的に教材の工夫や授業改善に努めて学力の定着を図り、各コースの目標とする資格取得に積極的に挑戦させることができた。 その結果、FPやITパスポートなどの国家資格に挑戦し、合格する生徒が出てきた。また、商業科の授業において、学校と外部企業が連携したデュアルシステムにより、前半は、ビジネスマナーや進路に向けた面接トレーニングなどを行い、後半ではビジネスプランの企画・運営に携わるなど、実践的な学習を行った。 【主な検定合格者数】 日商簿記検定 2 級 30名、全商簿記実務検定 1 級 12名、全商情報処理検定 1 級 26名、全商商業経済検定 1 級 35名など、延べ837名
秋田商業高校施設等の改修 (商業高校) (P 69に再掲)	雑用水（地下水）濾過除鉄マンガン装置更新工事を行い、教育環境の改善を図った。
秋田商業高校への空調設備の導入 (商業高校) (P 69に再掲)	普通教室冷房設置工事を行い、教育環境の改善を図った。
スクールカウンセラーの配置 (商業高校)	専門的な知識や経験を有するスクールカウンセラーを配置し、人間関係、家庭環境等で悩みを抱える生徒および保護者等の相談に応じた。 【派遣実績】 派遣時間 60時間、相談件数 22件、講話 2回

<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p>【現状（課題・成果等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域企業等との連携・協働による実践的・体験的な学びを「ビジネス実践」において実施しており、今後は学びの中で視野を広げ、より専門的な知識・技術の定着を図るため、内容の充実を図っていく必要がある。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も外部企業等との連携を積極的に活用し、地元秋田の現状を分析し、変化するビジネススタイルに適切に対応する人材の育成に努めるとともに、ユネスコスクールとしての活動も引き続き推進する。</li> <li>・タブレットを活用した授業について、生徒・教師ともに定着しつつあるが、より専門的な知識・技術の習得に向け、生徒の個々の能力に応じた学習環境を整備するための教材開発を引き続き行う。</li> <li>・今後も、資格取得で身に付けた力を実際のビジネスの場面で発揮するために、外部講師等を積極的に活用し、より実践的かつ専門的な学習の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ビジネス実践」など、商業としての特徴ある効果的な学びが実現されている。ユネスコスクールとしても、その学びの成果を広く発信してほしい。</li> </ul>

目標 1	志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ学校教育の充実
施策の方向性 6	高等学校教育の充実
施策 2	御所野学院高等学校の教育の充実

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
中高一貫校としての特色ある教育活動の充実 (御所野学院高校)	表現科、郷土学では、各テーマごとに外部講師を招き専門的なことを学び、まとめとして学習発表会を中高合同で実施した。 国際教養大学と連携して交流授業を行い、英語学習の充実を図った。中高合同のイングリッシュビレッジを国際教養大学にて実施した。
スクールカウンセラーの配置 (御所野学院高校)	専門的な知識や経験を生かして、人間関係や学校生活、不登校などに悩む生徒や保護者の面談、職員コンサルテーションを行った。 【令和4年度派遣実績】 派遣時数 49.5時間、相談件数 34件

今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)	学識経験者の意見等
<p>【現状（課題・成果等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>併設型中高一貫校から連携型中高一貫校に移行して4年目を迎え、御所野学院中学校以外の中学校からの入学者が増加傾向にある。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中高一貫校の特色を生かして、中高合同活動などに取り組むとともに、小規模校の利点を生かし、生徒一人一人に寄り添った支援や、進路実現を図るきめ細かい指導を行っていく。</li> <li>国際教養大学と連携関係にあることから、国際理解教育のより一層の充実に向けて、引き続き、国際教養大学にてイングリッシュビレッジに取り組み、英語教育に基づいた言語活用能力の強化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携型ではあるが、中高の共同の取り組みを、生徒間および教職員間に拡大していくことを期待する。国際教養大学に加え、県外、国外の同様の学校との交流を盛んにすることを期待する。</li> <li>連携型中高一貫校という特徴を生かして、特色ある教育づくりをより一層推進されることを期待する。</li> </ul>

目標 1	志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ教育の充実
施策の方向性 6	高等学校教育の充実
施策 3	秋田公立美術大学附属高等学院の教育の充実

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
専門性を高める学習活動の充実 (附属高等学院)	秋田公立美術大学との連携授業を行ったほか、学生との協働制作活動などにより、上級学校への理解の促進と専門性の向上に取り組んだ。 【連携授業】 大学教員3回、教職課程学生1回 【協働制作】 秋田市大森山動物園50周年モニュメント制作
学習成果の発信 (附属高等学院)	年度末の生徒作品展「明日のクリエイターたち」のほか、地域の図書館等の公共スペースや展示施設、市内の中学校などの様々な場所でミニ作品展を行い、学習成果の発信に努めた。
地域協働プロジェクトの推進 (附属高等学院)	多様な地域協働活動に取り組み、「ビダイフデザインラボ」は専門性を生かした特色ある活動として定着してきた。 【活動実績】 ・秋田銀線細工プロジェクト ・「新屋デザイン」、「五城目デザイン」等ポスター制作 ・秋田県警察本部警防犯ポスター制作 ・秋田市消防年報表紙デザイン ・秋田県立スケート場デザインプロジェクト ・太平中学校黒板アートプロジェクト ・日新小学校クロッキーサポート ・栗田特別支援学校との造形活動を通じた交流 他
スクールカウンセラーの配置 (附属高等学院)	専門的な知識や経験を生かして、人間関係や家庭環境等で悩みを抱える生徒や保護者等の相談に応じたほか、職員コンサルテーションを行った。また、生徒等への講話を実施した。 【派遣実績】 派遣時間 42時間、相談件数 69件、講話 2回

<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p><b>【現状（課題・成果等）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術系の高等課程をもつ公立の専修学校として、専門性を生かした教育活動を実践している。地域協働プロジェクト「ビダيفデザインラボ」の活動は社会とつながる実践的な学びの場となっている。今後も活動を通して、キャリア教育の充実を図っていく。</li> </ul> <p><b>【対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋田公立美術大学と連携した教育活動をより一層充実させ、生徒の専門性を高めるよう取り組む。</li> <li>・今後も校外各機関との連携を深め、地域協働プロジェクト「ビダيفデザインラボ」について一層の周知を図り、活動の場の拡大に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高大連携の授業や「ビダيفデザインラボ」などの取り組みを充実させていってほしい。秋田市など、地域の活性化に貢献できる人材を今後とも養成してほしい。</li> </ul>

目標 2	生涯を通じて学び、個性と能力を高める教育の充実
施策の方向性 1	学習支援体制の充実
施策 1	多様な団体等との連携・協働の推進

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
高等教育機関や民間企業等と連携した講座等の実施 (生涯学習室)	高等教育機関や関係機関の協力のもと、各機関の持つ高い専門性や幅広い分野でのノウハウを生かし、「発掘から考える久保田城下」や「歯とお口の健康づくり」のほか、現代的なテーマとして森林資源の活用とSDGsを取り上げた講座を実施するなど、多様な学習機会を提供した。また、令和4年度から新たに国際教養大学と連携し、地域における生涯学習等について学び交流する事業を実施した。 【令和4年度実績】 連携件数 171件
地域の自主的な学習活動への支援 (生涯学習室)	地域の団体や生涯学習奨励員等が企画立案したニュースポーツ「シャッフルボードを楽しむ会」や、「珠林寺の歴史と写経体験」など様々な活動について、講師謝金の一部を支給し、地域の学習の支援に努めた。 【令和4年度実績】 地域づくり自主企画事業 15件
生涯学習に関する相談体制の充実 (生涯学習室)	市民サービスセンターまつりなどの際に、生涯学習奨励員が学習相談に応じ、学習を希望する市民のニーズに対応した情報を提供した。 また、新たに長寿福祉課と連携し、「いきいきエイジの日」のイベント会場に、生涯学習相談のブースを設け、高齢者の学習意欲の向上に努めた。 【令和4年度実績】 生涯学習奨励員による生涯学習相談実施件数 20件 「いきいきエイジの日」相談件数 17件

<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p><b>【現状（課題・成果等）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の学習ニーズの高度化・多様化に対応するため、他の団体・企業と積極的に連携して幅広いテーマにより講座等を開催したほか、地域の自主的な学習活動を支援してきた。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、事業を計画どおり実施できなかったが、令和4年度は回復傾向にあり、学習支援体制の充実のため、今後さらに取組を進めていく。</li> </ul> <p><b>【対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各市民サービスセンターが持つ連携可能な関係機関などの情報を共有するほか、様々な分野の情報収集を行い、地域の団体等の学習活動を支援し、活性化を推進する。</li> <li>・生涯学習奨励員による学習相談を行うほか、庁内の関係課所室と連携を図り、各種学習情報の提供に努めることで、市民の「学び」に対する学習意欲を高めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自主的な学習活動への支援は、市民の主体的な学びや、地域コミュニティの醸成にもつながる可能性のある仕組みだと考える。今後、より一層の発展を期待する。</li> <li>・より多様な市民にも生涯学習の場を提供できるよう、新たなテーマの講座を開いたり、多様な人々が市民サービスセンターに行きたくなるような新たな仕組みや仕掛けづくりを引き続き工夫していただきたい。</li> </ul>

目標 2	生涯を通じて学び、個性と能力を高める教育の充実
施策の方向性 1	学習支援体制の充実
施策 2	各種学習情報の発信の充実

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
生涯学習に関する情報の提供 (生涯学習室)	<p>各種講座やサークル情報などの生涯学習関連事業を紹介する「生涯学習ガイド」を発行した。また、広報あきたやホームページ、チラシ、新聞、デジタルサイネージによる講座等の周知を図ったほか、生涯学習・社会教育関連事業公式ツイッターの活用により、継続的に学習情報を提供し、市民が必要とする情報を得られるよう支援した。</p> <p><b>【令和4年度実績】</b> 生涯学習ガイド配布冊数 424冊</p>

今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)	学識経験者の意見等
<p><b>【現状（課題・成果等）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広報あきた・ホームページなど既存の広報媒体に加え、新たな手法としてSNSを活用し、各種学習情報を広く周知することで市民の学習活動に対する関心・意欲の向上を図ってきた。学習支援体制のさらなる充実のため、取組を継続する。</li> </ul> <p><b>【対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習情報について、ホームページ・SNS・動画配信・デジタルサイネージ・新聞などのほか、広報あきたへの掲載、市民サービスセンター等へチラシおよびポスターを設置するなど、様々な媒体を活用して周知に努める。また、令和5年度は生涯学習ガイドを440冊作成し、配布する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信は非常に重要である。特にこれからは、冊子などの紙媒体よりも、より多くの人アクセスできるウェブサイトやSNSを統合的に魅力的な情報発信として工夫する必要があると考える。現在は、市民サービスセンターごとに情報が掲載されており、秋田市の生涯学習に関するホームページも、行政で画一化されているデザインになっている。関心がある人は、個別に情報を検索しなければならず、そもそも情報にたどり着けない可能性もある。将来的には、秋田市全体で、どのような講座や教室が開講されているのかが、一目で分かるような情報集約型かつ見やすいウェブサイトの創設などを検討する必要がある。</li> <li>「生涯学習」という用語は、まだまだ一般的には浸透していない可能性もある。より広く市民に情報を受信してもらえるためにも、あえて生涯学習という名称を表に掲げずに、検索されやすい名称で情報を発信し、その後、生涯学習について知ってもらえるよう工夫していくことも検討の余地がある。</li> </ul>



目標 2	生涯を通じて学び、個性と能力を高める教育の充実
施策の方向性 2	学習機会の充実
施策 1	ライフステージに応じた学習機会の充実

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
ライフステージに対応した学級・講座等の実施 (生涯学習室)	市民サービスセンターにおける乳幼児学級、女性学級および高齢者学級や、生涯学習室による青少年教室の実施などにより、生涯を通じた学習の支援に努めた。 【令和4年度実績】 市民サービスセンター：学級数 62学級、講座数 50講座 生涯学習室：青少年教室 32講座
二十歳（はたち）のつどいの開催（旧事業名：新成人のつどい） (生涯学習室)	成年年齢の引き下げに伴い、式典の名称を「二十歳（はたち）のつどい」と改め、20歳を迎える方を対象に実施した。当日は、ふれあいタイムに替えて各中学校の恩師からのビデオメッセージを放映したほか、参加できない方や保護者への対応として会場の模様をライブ・録画配信した。 18歳で成人を迎える方に対しては、民法改正の意義等についてホームページにより周知・啓発した。 【令和4年度参加者数】 2,026人
新しい生活様式やライフステージに応じたオンライン講座等の実施 (生涯学習室) (P50に再掲)	ICTを活用してコミュニケーションを図る手法（Web会議サービス）を学ぶ講座や、高齢者を対象としたスマートフォンを体験する教室を実施した。 【令和4年度実績】 開催回数 15回、参加者数 2,218人
社会の変化に対応した学習機会の提供 (生涯学習室)	「クマの生態と被害防止対策」や「初めてのスマートフォン体験教室」など、社会環境の変化に対応した学習機会を提供した。 【令和4年度実績】 開催回数 362回、参加者数 2,649人
体験活動機会の充実 (太平山自然学習センター)	小・中学生の教育活動の一環として日帰りによる集団生活や野外活動を行ったほか、家族対象のファミリーキャンプ、一般対象の太平山前岳登山等の自主事業を開催した。 【令和4年度利用実績】 学校利用 4,982人、一般利用 1,264人、主催事業 188人、事業参加者の満足度 100%

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
体験活動機会の充実 (自然科学学習館)	<p>小・中学生の学校利用において、科学実験やものづくり等を行ったほか、身近な科学的事象を題材とした体験学習の充実を図った。</p> <p>また、市民の科学に対する関心を高め、理解を深めるため、驚きのある体験活動を実施し、科学的な見方・考え方を養うことのできる各種実験やワークショップなどの体験学習機会の充実に努めた。</p> <p><b>【令和4年度利用実績】</b>            学校利用 4,823人、主催事業 6,461人、事業参加者の満足度 96.7%</p>

今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)	学識経験者の意見等
<p><b>【現状（課題・成果等）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍を経て、デジタル化が進むなど生活スタイルが大きく変化したことに伴い、市民の学習環境やニーズにも変化が生じていることから、個々の学習ニーズと社会の要請に応じた魅力ある学習機会を提供する必要がある。</li> </ul> <p><b>【対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル化などの新しい学習環境に対応するため、ICTに関する講座やオンラインによる講座等を実施するとともに、幅広い年齢層の学習ニーズに対応した様々な講座等を企画し、学習機会の更なる充実を図る。</li> <li>・各施設の特徴を生かした体験活動や体験型教室など魅力ある学習機会の提供に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、市民サービスセンターにおける様々な学習機会の提供を推進していただきたい。</li> <li>・「二十歳のつどい」では、動画配信など新しいサービスの提供に取り組まれている。今後も、参加者の声を聞きながら、工夫して、より良い成人の式典を開催していただきたい。</li> <li>・オンラインやスマートフォンについて、またクマの生態や被害防止策について学ぶ機会など、社会の変化に応じた学習機会を提供されていることは重要である。同時に、現場で体験的に学ぶ場の提供もますます重要になるため、太平山自然学習センターや自然科学学習館が自主事業を展開し、利用者の高い満足度を得ている点は特筆すべき貢献である。太平山自然学習センターでは、施設の老朽化が見られるようなので、ハード面の修繕とともに、ボランティアやインターンによる人員のサポートを得るなどソフト面の補強も進めていくなど、体験学習の提供を今後も継続していけるよう検討していただきたい。</li> </ul>

目標 2	生涯を通じて学び、個性と能力を高める教育の充実
施策の方向性 2	学習機会の充実
施策 2	新しい学習環境の充実

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
ジュニアプログラミング講座の実施 (生涯学習室)	小学生コースではわかりやすくプログラミングを学べる内容を、中学生コースでは個々のレベルに応じて本格的なプログラミングを学ぶ内容を実施した。また、講座修了後も継続してプログラミングに触れられる環境を作るため、個別にIDおよびパスワードを配布し、家庭のパソコンからも同様のテキストを使って学習できるようにした。さらに、例年人気が高く抽選倍率が高い小学生コースを1コース増やしたことで参加枠が拡がり、受講希望者のニーズに沿うことができた。 【令和4年度実績】 小学生コース 5コース 73人、中学生コース 4コース 49人
新しい生活様式やライフステージに応じたオンライン講座等の実施 (生涯学習室) (P48より再掲)	ICTを活用してコミュニケーションを図る手法(Web会議サービス)を学ぶ講座や、高齢者を対象としたスマートフォンを体験する教室を実施した。 【令和4年度実績】 開催回数 15回、参加者数 2,218人

今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)	学識経験者の意見等
<p>【現状(課題・成果等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル化や新しい学習環境に対応できるよう、児童生徒に対しジュニアプログラミング講座を実施し、プログラミング的思考の習得を図ったほか、市民に対してICTの活用に関する講座を実施した。新しい生活様式に対応し、市民が利用しやすい学習環境を充実させるため、受講場所や時間の自由度が高いオンライン講座を開催する必要がある。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒が親しみやすいよう、ロボット制御などの内容を取り入れ、プログラミングの概念やロジックについて学ぶジュニアプログラミング講座を実施する。</li> <li>受講場所や時間の自由度が高いオンライン講座を実施することで、個々の学習ニーズやライフステージに応じた学習機会を提供していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジュニアプログラミング講座は、例年通り人気が高く、そのニーズに応じるための工夫を講じていることは素晴らしいことである。プログラミングは、小中学生だけでなく、それを学校で学習できなかった世代も含めて幅広い年代からのニーズがあるかもしれない。「ライフステージに応じた」という施策では、世代ごとにニーズを設定して学習機会を提供しがちであるが、プログラミングのように、世代をこえて共に学べるテーマや学習機会の提供をすることも、生涯学習の一環ではないかと考える。</li> </ul>

目標 2	生涯を通じて学び、個性と能力を高める教育の充実
施策の方向性 3	学習成果の活用支援
施策 1	学習成果の適切な評価と活用の推進

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
自らの学習成果を実感できる環境づくり (生涯学習室)	学級や講座の開催時に、希望者へ学習者自らの学習履歴を記録する「生涯学習手帳」を配布し、学習者が自らの学習成果を実感できる環境づくりに努めた。 【令和4年度実績】 配布冊数 321冊 【累計実績】 配布冊数 1,891冊 (平成24年度からの累計)
学習内容を評価できる機会の提供 (生涯学習室)	各種学級や講座の受講者にアンケートを実施し、受講後の理解度や満足度を確認する機会を提供するとともに、希望する講座内容等を把握し、講座の企画、講師の選定および開催時間帯の工夫など、企画運営の改善を図った。 【令和4年度実績】 事業参加者満足度 96% アンケート調査を行った講座数 119講座 アンケート調査回答者数 1,816人

今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)	学識経験者の意見等
<p>【現状 (課題・成果等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「生涯学習手帳」の活用推進や、各種学級等におけるアンケートの実施により、学習者が自らの学習成果を振り返る機会を提供し、学習意欲の向上につなげてきた。また、アンケート結果を企画運営に生かすことにより、参加者の高い満足度を得られていると認識しており、今後も取組を継続する。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「生涯学習手帳」の活用の意義や使い方について紹介し、希望者に配布するなど、更なる周知に努め、活用を推奨する。</li> <li>学習意欲を高めるため、受講後のアンケートにより満足度と理解度を確認する機会を提供し、学んだ成果を実感できる環境づくりに努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで、生涯学習手帳やアンケート用紙の配布に取り組まれてきたことが分かる。生涯学習手帳の配布数は記載されているが、実際にどの程度、活用されているか。学習成果の実感には、講座の受講証明書の配布やスタンプラリー、参加者同士で感想を述べあうことなど、他の方法もある。これまでの施策の継続とともに、新たな方法を模索していくことも重要である。</li> </ul>

目標 2	生涯を通じて学び、個性と能力を高める教育の充実
施策の方向性 3	学習成果の活用支援
施策 2	地域への学習成果の還元への推進

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
学習成果の発表機会の充実 (生涯学習室)	<p>市民サービスセンターを拠点として活動しているサークルや学級等の活動成果の発表の場として、「市民サービスセンターまつり」や市民文化祭等を活用し、舞踊や合唱、写真や絵画など、様々な発表・展示を行った。</p> <p>また、明德館および土崎図書館において、「ディンプルアート」や「ハーバリウム」などの作品を展示し、学習成果を発表する機会を提供した。</p>
地域の歴史や文化を学ぶ機会の提供 (生涯学習室)	<p>地域の伝統文化を学ぶ体験をとおして、児童と高齢者など他世代との交流を深める機会を提供した。また、令和4年度は、新規に国際教養大学、生涯学習奨励員およびサークルと連携し、施設見学やサークルでの作品づくりなどをとおして若年層と高齢者が交流する事業を実施し、地域における生涯学習について、共に考える機会を提供した。</p> <p><b>【令和4年度実績】</b> 世代間交流事業実施数 3事業</p>
学習成果を生かす機会の提供 (生涯学習室)	<p>各種講座の講師にアンケートを実施し、「生涯学習講師団名簿」の登録の有無を確認し、未登録の講師に登録を促した。また、学習成果を生かすため、学級生が講師やボランティアとして、各種学級で活動する機会を提供した。</p> <p><b>【令和4年度生涯学習講師団名簿】</b> 登録者数 91人（令和3年度から3人増） 活動実績 市主催事業、カルチャースクールなど</p>

<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p>【現状（課題・成果等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習成果の発表の場として地域におけるイベントや図書館等を活用するほか、学習者が講師やボランティアとして主体的に各種学級で活動する機会を提供することで、学習意欲の向上を図ってきた。また、大学と連携し、世代間交流事業に若年層の参加を組み込んだことにより、交流する世代の幅が広がり、学習者の意欲向上にもつながっており、取組を継続していく。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「市民サービスセンターまつり」等への参加や、図書館などにおける作品展示などにより、学びの成果を発表できる機会の充実に努める。</li> <li>・若年層の学習への参加を促進するため、国際教養大学と連携し、地域の歴史等について、共に学び考える機会を提供し、世代間の交流を図る。</li> <li>・「生涯学習講師団名簿」について、各種講座の講師へ登録を推奨し、登録者数の増加に努めるとともに、学級生等を講師として活用できるよう人材の育成に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍を経て、市民サービスセンターまつりが各地で実施できたことは非常に良かった。</li> <li>・中央図書館明德館や土崎図書館で作品を展示することは、学習成果の発表にとどまらず、図書館という空間を文化的にも芸術的にもより豊かにし、さらに作品を見た市民が講座やサークルの存在を知り、関心を持つきっかけになる可能性もある。そのような豊かな学習空間づくりや人のつながりをつなげていけるような機会としても、地域への学習成果の還元を推進していく必要がある。</li> <li>・児童生徒と地域住民のつながりを保つためにも、地域の伝統文化を学ぶ体験学習は重要である。引き続き、施策として地域を支援していただきたい。</li> </ul>

目標 2	生涯を通じて学び、個性と能力を高める教育の充実
施策の方向性 4	地域コミュニティづくりの推進
施策 1	学びを通じたネットワークづくりの推進

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
親子体験活動事業の実施 (生涯学習室)	地域の関係団体などと連携を図りながら、「バルーンアート」や「和紙でつくる置物づくり」など親子で体験できる講座を実施し、親子や地域の絆づくりに努めた。 【令和4年度実績】 講座数 22講座、参加者数 275人
学校と地域が連携した学習活動の実施 (生涯学習室)	地域に伝わる伝統芸能の伝承と保存を支援し、継承する活動を実施した。 【令和4年度実施状況】(山谷番楽) 活動場所 旧山谷小学校体育館ほか 活動日数 33日
家庭教育学級等の実施 (生涯学習室)	乳幼児期および小中学生等の家庭教育上の相談に対して、専門の相談員からのアドバイスを行い、家庭教育を支援した。また、「親子木工教室」など家庭教育講座の実施により、家族の交流を通して子どもについて理解する機会を提供するなど、家庭の教育力の向上に努めた。 【令和4年度実績】 参加者数 594人
学びへのきっかけづくりと人材の育成 (生涯学習室)	各地域に配置している生涯学習奨励員の企画による事業を実施する際、学習者を講師やボランティアとして活用するなど人材育成に努め、地域の学習活動の活性化を図った。 【令和4年度実績】 学習者を講師等として活用した事業数 11事業

<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p>【現状（課題・成果等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の団体・学校等と連携した親子体験活動・伝統芸能の伝承や、専門の相談員による家庭教育支援により、家庭や地域の絆を深める取組を行ってきた。また、地域の事業に学習者を講師やボランティアとして活用し、人材育成に努めることで地域の学習活動の活性化を図ってきた。地域コミュニティづくりの推進のため、取組を継続していく。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校・家庭・地域と連携し、地域の特色や課題を的確に捉えた各種教室や講座等の実施に努める。</li> <li>・地域の団体等が自主的に学習活動に取り組めるよう、生涯学習奨励員と連携して、学びへの参加のきっかけづくりや活動を活性化する人材を育成し、家庭や地域の教育力向上に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と地域が連携した学習活動の実施は、山谷番楽で盛んに行われており、素晴らしい継承活動である。今後は、他の学校や地域においても、それぞれの形での連携学習が行われることを期待する。</li> </ul>



目標 2	生涯を通じて学び、個性と能力を高める教育の充実
施策の方向性 5	読書活動の推進
施策 1	図書館サービスの向上

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
資料の整備・充実 (各図書館)	市民のニーズに対応した図書資料の整備・充実を行い、市民の読書活動を支援した。 【令和4年度図書館アンケート結果】 「探していた本や情報、知識を得ることができたか」 満足度85% (691人回答 満足・やや満足合計590人) 「秋田市立図書館を総合的にどれくらい満足しているか」 満足度93% (691人回答 満足・やや満足合計641人)
レファレンスや各種事業の充実 (各図書館)	レファレンスサービスについては、利用される方のニーズにあわせた最適な情報を提供するため、職員の技術向上を図るなど、サービスの充実に努めた。 また、「はじめての万葉集(明德)」、「異文化・国際理解のススメ(土崎)」、「鼎談・絵本の楽しみ(河辺)」等の市民文化講座および「はじめての海外文学(新屋)」等の資料展示を実施し、多様な学習機会の提供に努めたほか、雄和図書館では石井露月生誕150年記念事業を実施した。 【令和4年度図書館アンケート結果】 レファレンスサービスの認知度 49% (691人回答 知っている338人) レファレンスサービスの満足度 98% (内訳: 133人回答 満足・やや満足合計131人) 【令和4年度各種講座等・資料展示実施回数】 各種講座等: 明德13、土崎13、新屋10、雄和7、河辺7、フォンテ8 資料展示: 明德77、土崎68、新屋83、雄和24、河辺40、フォンテ11
読書環境の整備・充実 (各図書館)	図書館システムの更新を実施した。図書館アプリを導入したほか、Wi-Fi環境整備機器の拡充更新を実施(フォンテに新設、明德・新屋でエリア拡大)し、市民の利便性向上を図った。 また、中央図書館明德館に1台設置していた図書除菌機を1台増設したほか、土崎図書館、新屋図書館、雄和図書館、河辺分館、フォンテ文庫にも1台ずつ新たに導入し、市民が安心して図書資料を利用できる環境整備に努めた。

<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p>【現状（課題・成果等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の資料、事業などについて、総合的に市民から一定の満足度を得られていることから、取組を継続することにより、市民の多様なニーズに対応し、利用しやすい環境整備に努めていく。</li> <li>・レファレンスサービスの認知度が低いことから、サービスの周知・充実を図る必要がある。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート等で市民のニーズを把握しながら各種事業を実施し、市民の学習活動および読書活動の支援を図る。また、レファレンスサービスについては、周知のためのポスター掲示やホームページでの事例公開等により認知度を高めて、市民に役立つ情報を提供する。</li> <li>・令和5年度は明德館開館40周年記念事業として、特別資料展示や古文書講座等を実施するほか、新屋図書館移転開館25周年記念事業として、大森山動物園コラボを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果からは図書館への高い満足度が示されているため、これからも市民のニーズに対応しつつ、秋田市にある図書館として、一層の資料の充実や環境整備に期待する。</li> <li>・レファレンスサービスの認知度が低いことから、一般市民にも分かりやすい名称や紹介を工夫し、自然と体験できるような仕掛けづくりなどの工夫が求められる。</li> </ul>

目標 3	将来にわたり安全安心で快適な教育環境の整備
施策の方向性 1	良好な教育環境の整備
施策 1	学校の適正配置

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
学校適正配置の推進 (学校適正配置推進室)	市立小・中学校の適正配置について、地域ブロック協議会において、統合の方向性（学校の組合せ）が決定した地域では、「学校統合検討委員会」を設置し、統合の時期、統合後に使用する校舎および通学手段などの協議を通じて、統合の可否を検討した。 また、統合に合意が得られた学校については「学校統合準備委員会」において、統合に向けた具体的な準備や検討を行った。 (※1 地域協議の開催実績は下表のとおり)
学校の統廃合に向けた準備 (学校適正配置推進室)	令和5年4月1日の統合に向け、秋田西中・豊岩中・下浜中および太平中・城東中において、交流事業やスクールバスの乗車訓練を実施したほか、令和4年度末で閉校した豊岩中、下浜中、太平中の3校において、それぞれ閉校記念式典を挙行了。 (※2 閉校記念式典の開催実績は下表のとおり) また、令和6年4月に統合を予定している下北手中・城東中において、交流事業を行ったほか、令和4年4月に統合した上新城小・飯島南小の児童等を対象に意識調査を実施した。

#### ※1 令和4年度地域協議の開催実績

地域協議の名称	地域、学校の組合せ	延べ回数	延べ参加人数
1 学校統合検討委員会	① 中央 築山小・中通小	15回	196人
	② 中央 旭北小・旭南小		
	③ 西部 浜田小・豊岩小・下浜小		
	④ 北部 土崎中・将軍野中		
	⑤ 北部 秋田北中・飯島中		
	⑥ 北部 土崎小・土崎南小		
	⑦ 北部 下新城小・金足西小		
2 学校統合準備委員会	① 東部 太平中・下北手中・城東中	9回	136人
	② 東部 広面小・太平小・下北手小		
	③ 西部 秋田西中・豊岩中・下浜中		

※2 閉校記念式典の開催実績

1 名称	秋田市立豊岩中学校閉校記念式典	秋田市立下浜中学校閉校記念式典	秋田市立太平中学校閉校記念式典
2 日時	令和4年10月22日(土)10時～	令和4年10月29日(土)10時～	令和5年3月11日(土)10時～
3 会場	豊岩中学校体育館	下浜中学校体育館	太平中学校体育館
4 参加人数	153人	167人	159人
5 テーマ	D r e a m ～豊岩が教えてくれた 76年分のあり がとう～	下浜の 海の青さを 忘れまい	繋ぐ ～歴史を未来へ、感謝を地域へ～

今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)	学識経験者の意見等
<p>【現状(課題・成果等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒数が減少し、学校の小規模化が進んでいることから、引き続き、児童生徒の良好な教育環境を確保する必要がある。</li> <li>・統合予定の学校については、円滑な統合が図られるよう、地域や保護者の意見や要望を十分に踏まえながら、準備を進める必要がある。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域ブロック協議会」「学校統合検討委員会」「学校統合準備委員会」での協議を継続し、地域や保護者の意見を十分に踏まえながら学校適正配置を推進する。</li> <li>・統合に合意が得られた学校については、児童生徒や保護者の負担軽減を図るため、交流事業の実施や適切な交通手段を確保するほか、地域と連携しながら閉校記念事業の実施や廃校舎の利活用を検討する。</li> <li>・統合後の児童生徒の状況を把握するため、意識調査を行い、その結果をもとに、地域、保護者、学校と意見交換し、統合の効果や課題を分析するとともに、必要に応じた支援を行う。</li> </ul> <p>【統合予定校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年4月 下北手中・城東中</li> <li>・令和7年4月 広面小・太平小・下北手小</li> <li>・令和8年4月 土崎小・土崎南小</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校統合検討委員会、学校統合準備委員会が順調に進展しており、今後とも、学校の適正な配置、統廃合が慎重かつ着実に実行され、よりよい教育環境が実現されることを期待する。</li> <li>・今後も、関係者との意思疎通を大切にし、それぞれの意見を踏まえながら、準備を進めていくことを期待する。</li> </ul>

目標 3	将来にわたり安全安心で快適な教育環境の整備
施策の方向性 1	良好な教育環境の整備
施策 2	I C T 環境の充実

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
次世代型学校 I C T 環境の充実 (学事課)	令和 2 年度に整備した児童生徒 1 人 1 台のタブレット端末については、導入から 2 年が経過し、故障が増加したことから、61 台の修理を実施した。 また、I C T 支援員を 32 人配置し、機器のメンテナンスや授業支援、教員研修等、学校現場の総合的な I C T サポートを行った。
小・中学校情報教育環境の整備 (学事課)	教育の情報化を推進するため、教員用タブレット端末 441 台や、教員用校務用パソコン 154 台など、指導者用端末を整備した。
小・中学校デジタル教科書の整備 (学事課)	デジタル教科書の本格導入に向け、国が実施するデジタル教科書実証事業を活用し、児童生徒および指導者用のデジタル教科書を整備するとともに、対象とならない小・中学校には本市独自で整備した。 <b>【令和 4 年度実績】</b> 国の実証事業による整備：小学校 34 校、中学校 22 校 本市独自整備：小学校 6 校、中学校 1 校

<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p>【現状（課題・成果等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育分野におけるICT活用の動きが急速に進んでおり、令和6年度のデジタル教科書本格導入など、国の動向を踏まえながら、取組を進める必要がある。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既に整備済のタブレット端末や高速大容量ネットワークの維持管理、改善を継続するとともに、ICT支援員については、教員のスキル向上を踏まえ、令和5年度から配置人数を計20人に見直し、引き続き、学校現場のICTサポートを行う。</li> <li>・令和5年度も引き続き、国の実証事業を活用し、デジタル教科書を整備し、教育環境の充実に図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT支援員、デジタル教科書など、予算等を確保しながら、ICT活用のための条件整備、環境整備に計画的に取り組んでいただきたい。</li> <li>・教育現場におけるスムーズで効果的なICT活用が進むよう、引き続き環境の充実に取り組むことが求められる。</li> </ul>

目標 3	将来にわたり安全安心で快適な教育環境の整備
施策の方向性 1	良好な教育環境の整備
施策 3	児童生徒の実情に応じた学びの支援

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
小・中学校における就学援助の実施 (学事課)	<p>経済的理由により就学困難と認められる児童生徒および障がいのある児童生徒の保護者の負担を軽減するため、就学援助費および特別支援教育就学奨励費を支給した。</p> <p>また、新小・中学1年生の保護者に対し、新入学学用品費の入学前支給を実施した。</p> <p>【令和4年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就学援助費 小学生 2,050人、中学生 1,183人</li> <li>・特別支援教育就学奨励費 小学生 126人、中学生 42人</li> <li>・新一年生入学学用品費 小学生 279人、中学生 364人</li> </ul>
小・中学校における通学支援の実施 (学事課)	<p>通学距離・身体的状況により、徒歩での通学が困難と認められる場合において、遠距離通学費補助金を交付し、保護者の負担軽減を図った。</p> <p>【令和4年度実績】</p> <p>小学生 65人、中学生 2人</p>
小学校における通学支援の実施 (学校適正配置推進室)	<p>学校統合に伴い、旧上新城小学校区から飯島南小学校に、マイタウン・バスを利用して遠距離通学する児童の保護者に定期券を交付し、保護者の負担軽減を図った。</p> <p>【令和4年度実績】</p> <p>小学生 15人</p>
小・中学校スクールバスの運行 (学事課)	<p>学校の統廃合により遠距離通学となる児童生徒の通学を支援するとともに、通学時の安全を確保するため、小学校5校、中学校3校において、安全・安心なスクールバスの運行に努めた。</p> <p>【実施校】</p> <p>太平小学校、下新城小学校、岩見三内小学校、河辺小学校、雄和小学校、飯島中学校、岩見三内中学校、雄和中学校</p>
小・中学校教育団体・各種大会出場費の補助 (学事課)	<p>児童生徒が部活動において、東北大会以上の大会に出場する際の負担軽減を図るため補助金を交付した。また、秋田市中学校体育連盟が実施する事業に対して補助金を交付した。</p> <p>【令和4年度実績】</p> <p>小学校 6校・7件、中学校 19校・61件、市中体連 1件</p>

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
小・中学校特別支援学級新設に伴う整備 (学事課) (P27より再掲)	児童生徒の障がいに対応した教育を行うため、新設された特別支援学級に対し、指導上必要な教材等の整備を行った。 <b>【令和4年度実績】</b> 小学校 8学級、中学校 9学級

今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)	学識経験者の意見等
<p><b>【現状(課題・成果等)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済状況の変化や、少子化に伴う学校の適正配置など、教育を取り巻く環境が変動していることから、児童生徒の学習活動に影響が出ないように、支援を行っていく必要がある。</li> </ul> <p><b>【対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の経済的負担を軽減し、児童生徒の教育の機会を確保するため、引き続き就学援助費および特別支援教育就学奨励費を支給する。</li> <li>・令和5年度は秋田西中、豊岩中および下浜中の統廃合により、遠距離通学者はマイタウンバスの利用となることから、定期券を交付するほか、令和6年度に統廃合する城東中と下北手中のスクールバスの運行方法等を検討するなど、今後も続く様々な統廃合の形に合わせて、定期券交付やスクールバスの運行等の支援を行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの経済的条件や地理的条件などによって格差が生じないように、平等に教育を受ける権利が保障されるよう、経済面、交通面などでの支援を今後とも充実させてほしい。</li> <li>・なるべく公平性を担保した小中学校の教育機会を提供できるよう、引き続き、必要な支援を継続していただきたい。</li> </ul>



目標 3	将来にわたり安全安心で快適な教育環境の整備
施策の方向性 2	安全安心な教育環境の整備
施策 1	校内や通学路等の安全確保

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
新型コロナウイルス感染症対策事業 (学事課)	児童生徒の健康診断および就学時健康診断における感染症対策として、従事する学校医、帯同看護師に対し、医療用防護具等を調達した 【購入物品】 医療用ガウン 7,050枚、サージカルマスク 6,600枚、フェイスシールド 1,700枚、医療用手袋 168,200枚
小学校安全活動の推進 (学事課)	地域住民による安全活動の取組を推進するため、全小学校において、地域の実情に応じ、校地内の安全や登下校の通学路の見守りといった活動に必要な物品等を調達した。 【主な購入物品】 ベスト、帽子、腕章、三角コーン、ポール、拡声器、LED誘導旗、ネットランチャー等
スクールガード養成講習会の実施 (学事課)	スクールガード(安全ボランティア)養成講習会については、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、講習会の開催は見送ったが、文部科学省防犯リーフレットや秋田県安全安心まちづくり通信等をホームページに掲載するとともに、秋田っ子まもるメールにより、スクールガード(安全ボランティア)への参加を呼びかけた。 【登録者数】 5,083人(令和4年度末)
通学路の交通安全確保に関する連絡協議会の開催 (学事課)	小学校通学路における交通危険箇所の解消を図るため、対象となる交通危険箇所について、道路管理者や警察などと合同点検を実施し、歩道のカラー化やカーブミラー標識板の交換などの対策を行った。 【令和4年度合同点検実績】 点検箇所7箇所、必要な対策数12件(うち実施した対策数8件)
児童生徒の防犯に関する連絡協議会の開催 (学事課)	児童生徒の安全を確保するため、対象となる防犯上の危険箇所について、警察や学校などと合同点検を実施し、パトロール強化や児童生徒への注意喚起などの対策を行った。 【令和4年度実績】 点検箇所1箇所、必要な対策数2件(うち実施した対策数2件)

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
秋田っ子まもるメールの配信 (学事課)	<p>「秋田っ子まもるメール」により、市民に対し、不審者に関する注意喚起のほか、熊警報について迅速に情報提供を行った。</p> <p><b>【令和4年度実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登録者数 15,343人（うち秋田市子育てLINEの登録者数 3,602人）</li> <li>・配信件数 31件</li> <li>・解決事案配信件数 8件</li> </ul>

今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)	学識経験者の意見等
<p><b>【現状（課題・成果等）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが巻き込まれる事件・事故が全国で発生していることから、地域全体で子どもたちを見守る体制づくりを強化する必要がある。</li> </ul> <p><b>【対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校時の見守り活動を行うスクールガードの養成講習会を再開するとともに、「秋田市児童生徒の防犯に関する連絡協議会」において登下校中の安全対策を協議するなど、学校、家庭、地域、関係機関との連携を強化する。</li> <li>・引き続き、「秋田っ子まもるメール」を活用し、不審者情報のほか、熊警報や児童生徒の見守り活動に有益な情報を配信するとともに、「秋田っ子まもるメール」や、新たな配信ツールである「秋田市子育てLINE」への登録についても周知し、登録者数の増加を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症、交通事故、不審者、各種災害など、子どもの周りに潜む危険を除けるよう、地域、学校が協力して取り組んでおり、これを継続、充実させていってほしい。</li> <li>・引き続き、安全な通学ができるよう、通学路の点検整備などのハード面と、スクールガードの養成や情報共有などのソフト面の整備を充実させていくことが求められる。</li> </ul>

目標3	将来にわたり安全安心で快適な教育環境の整備
施策の方向性2	安全安心な教育環境の整備
施策2	安全安心で安定的な学校給食の提供

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
学校給食費の適正な管理 (学事課)	<p>学校給食費を適正に管理するため、給食費算定の基礎となる食数管理や給食費の収納管理を行ったほか、毎日の給食食材を安定的に調達した。</p> <p>また、物価高騰への対応として、給食物資購入額が学校給食費を超過した分を市が負担することにより、保護者の経済的負担を増すことなく、児童生徒に最適な学校給食を提供した。</p> <p>【令和4年度食数】(教職員等含む) 小学校 13,893食/日、中学校 7,224食/日、計 21,117食/日 (令和4年5月1日現在)</p>
異物混入防止対策の徹底 (学事課)	<p>学校給食への異物混入を防止するため、調理員等を対象に異物混入対策マニュアル等を活用した研修会を開催し、異物混入防止について周知・徹底を図った。</p> <p>また、調理場一斉点検を行い、異物混入の原因となり得る破損・劣化が見られた食器・調理器具を更新し、調理環境の維持改善に努めた。</p> <p>【調理場一斉点検】 期間 R4.6.27~7.29、箇所数 42 (単独調理場32、共同調理場9、給食センター1)</p>
学校給食支援員の配置 (学校教育課) (P21より再掲)	<p>学校給食支援員を配置し、給食に関わる事務の円滑な処理を推進した。</p> <p>また、「学校給食支援員研修会」を通して、食物アレルギー対応および異物混入の防止等、学校給食の安全確保の周知・徹底を図った。</p> <p>【令和4年度配置実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教諭および学校栄養職員未配置校への配置 18校、18人</li> <li>・食物アレルギー対応の多い学校への配置 9校、5人</li> <li>・給食施設改修工事のための配置 1校、1人</li> </ul>
城東中学校・桜中学校共同調理場機械設備等改修事業 (学事課)	<p>老朽化した城東中学校・桜中学校共同調理場の換気設備等を改修し、衛生環境の改善を図った。</p>

<p style="text-align: center;">今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)</p>	<p style="text-align: center;">学識経験者の意見等</p>
<p>【現状（課題・成果等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全な学校給食の提供のため、引き続き、異物混入防止対策の徹底を図っていく必要がある。</li> <li>・安定的な学校給食の提供のため、給食食材の調達に影響を及ぼす物価高騰などの状況を注視し、適切な対応を行っていく必要がある。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調理機器等の維持管理および各種研修会の実施などハード・ソフト両面から異物混入防止対策に努める。</li> <li>・物価高騰への対応として、令和4年度に引き続き、給食物資購入額が学校給食費を超過する分について市が負担することとし、保護者の経済的負担を増すことなく、児童生徒に最適な学校給食を提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食は子どもたちの栄養補給、栄養バランスの確保にとって重要な役割を果たしており、その安全の確保、財源の確保などに、今後とも取り組んでほしい。</li> <li>・引き続き、安全安心で安定的な学校給食の提供ができるよう必要な支援や対策を継続してほしい。</li> <li>・目標1と関連するが、秋田県産の農産物を使ったり、農業体験や農家との交流の時間を持ったりするなどの食育を推進することも、学校給食の質を高めることにつながると思う。</li> </ul>

目標 3	将来にわたり安全安心で快適な教育環境の整備
施策の方向性 2	安全安心な教育環境の整備
施策 3	教育施設の整備

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
小学校の大規模改修 (総務課)	旭川小学校の老朽化した管理・普通教室棟の屋根・外壁および1・2階の内装を改修し、教育環境の改善を図った。
小・中学校の施設改修 (総務課)	外壁改修など、老朽化した施設の改修等により、教育環境の改善を図った。 【令和4年度実績】 小学校 8校(明德小学校、築山小学校、港北小学校、上北手小学校、八橋小学校、東小学校、御所野小学校、河辺小学校) 中学校 8校(秋田東中学校、秋田西中学校、城南中学校、城東中学校、泉中学校、将軍野中学校、御野場中学校、勝平中学校)
小・中学校のトイレ改修 (総務課)	老朽化したトイレの大規模改修により、教育環境の改善を図った。 【令和4年度実績】 小学校 2校(築山小学校、港北小学校) 中学校 3校(城南中学校、将軍野中学校、御野場中学校) 【洋式化率】 小学校 63.9% (R3) → 64.3% (R4) 中学校 60.4% (R3) → 65.1% (R4) 全体 62.6% (R3) → 64.5% (R4)
小・中学校の屋根防水改修 (総務課)	老朽化した屋根を改修し、教育環境の改善を図った。 【令和4年度実績】 小学校 1校(土崎南小学校) 中学校 1校(土崎中学校)
日新小学校の改築 (総務課)	日新小学校建設工事のため、工事車両の搬入路設置のため校舎の一部を解体したほか、建設予定地の造成工事を行った。
小・中学校備品の整備・充実 (総務課)	各校の要望を踏まえて、各教科の教材を購入するなど、学校備品の計画的な整備に努めた。

施策・事業	実績および成果 (自己評価)
秋田商業高校施設等の改修 (商業高校) (P40より再掲)	雑用水(地下水)濾過除鉄マンガン装置更新工事を行い、教育環境の改善を図った。
秋田商業高校への空調設備の導入 (商業高校) (P40より再掲)	普通教室冷房設置工事を行い、教育環境の改善を図った。
社会教育施設の改修 (太平山自然学習センター) (中央図書館明德館) (土崎図書館)	各社会教育施設において、整備工事や更新工事を行い、施設環境の改善を図った。 【令和4年度実績】 ・管理棟のパッケージ型エアコン更新工事(太平山自然学習センター) ・駐輪場整備工事(中央図書館明德館) ・昇降機更新工事(土崎図書館)

今後の課題と対応 (令和5年度以降の取組)	学識経験者の意見等
<p>【現状(課題・成果等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本市の小中学校施設の約6割が築40年を超えており、老朽化対策が重大な課題となっている。</li> <li>小中学校を除く教育委員会所管施設の個別施設計画が最終年度を迎えることから、計画の更新が必要である。</li> </ul> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校施設については、今後も児童生徒等の安全安心を優先しながら、計画的かつ効率的な施設改修に努めることとし、令和5年度に中学校の長寿命化改修2校や、小中学校の施設改修19校、トイレ改修工事5校のほか、日新小学校の改築に関し、校舎・屋内運動場棟の工事を実施する。</li> <li>小中学校を除く教育委員会所管施設の個別施設計画を令和5年度中に改定し、計画的な維持管理に努めるとともに、中央図書館明德館の書庫エレベーター更新工事および防火設備修繕を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校舎や教室、施設、トイレ、屋根などの改修、備品の整備・充実が計画的に取り組まれており、今後も安全をチェックしながら、より快適な教育環境の実現を目指して、着実に取り組んでいただきたい。</li> <li>優先度の高い施設から順に改修が進められている。これからも、効率的な施設・設備の改修をしていただきたい。</li> </ul>